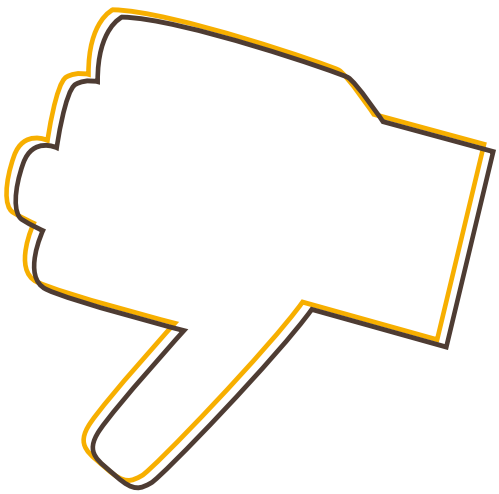
ATAC2005

～電子情報支援技術（e-AT）とコミュニケーション支援技術（AAC）に関するカンファレンス～

Assistive Technology &
Augmentative Communication
Conference 2005

『組み合わせることで生まれるもの ”HITOTOHITOTOHITO”』



-プリカンファレンス-

2005/12/2 (fri) 11:15-16:45

-メインカンファレンス-

3 (sat) 9:00-18:15

4 (sun) 8:30-16:15

国立京都国際会館

〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池
(京都駅より地下鉄20分／京都国際会館駅下車)
http://www.kich.or.jp/

主催 ATAC 特定非営利活動法人 e-AT利用促進協会

ATAC カンファレンスとは？

「障害があっても自己決定できれば生活の質が向上する」,「重い障害があっても子ども達は普通学校の中で学ぶことで成長することができる」といった考えに共感する人も多いと思います。しかし，理念だけでは，実際の生活はなかなか変わりません。今，求められているのは，それを現実のものとするための技術（テクノロジー）と技法（テクニック）であると思います。そこで ATAC カンファレンスは，それについて分かりやすく学んでいただける場を提供しようという気持ちからスタートしました。

一方，技術や技法を活かすには，障害，福祉，教育に関する見かたについても我々が偏りのない知識を持っておくべきだと考えています。ATAC カンファレンス 2005 では，AT（支援技術）と AAC（コミュニケーション技法）に関する約 90 のセミナーが実施されます。主体は参加者の方々です。自由にお好きなセミナーを選んで学んで下さい。１つの技術や技法がいつでもどこでも最良であるとは限りません。人や場面が変わればその方法が最悪なものになる可能性もあります。いろいろな視点から問題を見て，多くの方法の中から最適な技術や技法を選択できることが大切だと思います。このカンファレンスが, いろいろな視点をもっていただく良い機会になればと思います。

セミナーに司会者はいません。各セミナーの講師の方々に進行はおまかせしています。講師や他の参加者の方々と自由にコミュニケーションとりながら楽しく学んで下さい。

今年のテーマは

「組み合わせることで生まれるもの”ＨＩＴＯＴＯＨＩＴＯＴＯＨＩＴＯ”」

カンファレンスを通して，その意図に気付いていただければと思います。

も　く　じ

ATAC カンファレンスとは？　…… 1

ご案内　…… 3

プログラム…… 6

１２月２日［プリ・カンファレンス］

１２月３日［メイン・カンファレンス］

１２月４日［メイン・カンファレンス］

発表要旨…… １２

１２月２日［プリ・カンファレンス］

１２月３日［メイン・カンファレンス］

１２月４日［メイン・カンファレンス］

機器・書籍展示…… ２２

ご　案　内

〈受付について〉

・ATAC カンファレンス受付は，京都国際会館正面玄関ではなく，京都国際会館アネックスホール入口にあります。
・受付にて受付番号（参加受付完了のお知らせにて通知）あるいはお名前をお伝えください。名札ストラップおよび関係資料をお渡しします。
・この名札ストラップによって参加登録の確認をさせていただきますので，着用のご協力をお願いします。

〈テキストについて〉

〈プリカンファレンス用テキストについて〉
　・各セミナー室にて，配布します。テキストあるいは資料は，セミナー代に含まれています。
〈Proceedings（メインカンファレンス用テキスト）について〉
　・受付横で 1,000 円にて販売します。ご希望の方はお買い求めください。

〈福祉情報技術コーディネーター認定試験申込，お問い合わせ等について〉

・３日及び４日の１２：００～１３：００の間，認定試験の窓口を設けます。ご要望のある方は，受付までお越しください。

〈クロークについて〉

・クロークを設けています。こちらでお荷物をお預かりしますが，貴重品については，各自での管理をお願いします。貴重品等の紛失・損傷・盗難等は，一切の責任を負いかねることを御了承ください。
・クロークのご利用時間は，２日は１７：００まで，３日は２０：００（懇親会終了時間）まで，４日は１８：４５（福祉情報技術コーディネーター認定試験終了時間）までとなっております。

〈セミナーの撮影・録音について〉

・コンサート及び海外招待講演会は撮影・録音禁止です。
・その他のセミナー，出展会場では，必ず各講師・出展社への承諾を得ておこなってください。
なお，その際には，他の参加者の迷惑にならないようにご配慮ください。

〈食事について〉

・会館内にはレストラン「グリル」（営業時間１０：００～１７：００）があります。また，昼食時には受付近辺にてお弁当の販売もおこなっております。
・アネックスホール横（ランチコーナー）にて，コーヒー・ドーナツ等の販売もおこなっていますので，どうぞご利用ください。
・３日（土）のお昼のセミナーには，軽食が用意されています。
・セミナー会場内での飲食は可能です。ごみの始末にご協力をお願いします。

〈喫煙について〉

・会場内は禁煙です。指定場所以外での喫煙は , ご遠慮ください。

〈休養場所について〉

・ご気分が悪くなられた方，お子様のおしめ交換などのスペースをご希望の方は，受付までお越しください。

〈こころ大賞授賞式・コンサート・懇親会について〉

・３日（土）１７：００～１８：１５まで，アネックスホールで「こころ大賞」授賞式，及びコンサートをおこないます。
・懇親会への参加者は，１８：３０に，懇親会会場「メインラウンジ（１階）」までお集まり下さい。
・懇親会参加は当日懇親会会場でも受け付けますが，人数に限りがありますので，ご希望の方は，事前に受付にてお申し込みください。参加費は，１名様５，０００円です。

〈アンケートご記入のお願い〉

・当日受付での関係資料の中にアンケートを同封しますので，ご協力をお願いします。
・アンケートをご提出された方の中から抽選で５名の方に「ATAC カンファレンス２００６」の参加割引券を差し上げます。

〈当日の連絡先〉

・カンファレンス期間中，ATAC カンファレンス事務局へのお問い合わせは，**03–5207-6319** までお願いします。

なお, 本プログラムの当日配布はいたしませんので, ご持参いただきますようお願い致します。

（裏表紙には，会場内の地図が掲載されていますので，ご参照ください。）

相談コーナー　(12/3,12/4)

展示会場内に，機器やコミュニケーションに関する相談コーナーが設置されています。無料となりますので，お気軽にご相談下さい。

3日（土）１３：００～１５：００（予定）
4日（日）１０：００～１５：００（予定）

詳細につきましては，当日，会場にてご確認下さい。

Show & Tell　(12/3 一人 1 分程度)

自作の道具やソフト，あるいは，自分たちの活動パンフレット，出版物などを見せながら，自慢話をしてもらいます。当日，お気軽にご参加下さい。

3日のお昼のセミナーには，軽食が用意されています。

★海外特別講演（通訳有）

詳細は，プログラムを参照下さい。

［12/3　12:10-12:50］
機械で産み出す言葉　Minspeak(R):
A Key to Language（Bruce Baker）

［12/4　11:15-12:15］
より簡単な支援技術へ
Moving towardsmore simple
Assistive
Technology systems（Paul Blenkhorn）

■第一回こころ大賞授賞式
（12/3　17:00-17:30）

e-AT を使って絵を描く，文章を書く，人とコミュニケーションするなど，自分の夢を実現した人とそのサポータに贈られる賞です。
栄えある第一回の受賞となるのは？？？？？

■コンサート（12/3　17:30-18:15）
ー　掛屋剛志 君

掛屋剛志君は 13 歳。第 2 回ゴールドコンサートでオリジナル曲「むかし」を歌い審査員特別賞を受賞。また，24 時間テレビでは武道館でも熱唱。

コンサート　- 掛屋剛志君自己紹介文

音楽が大好き、拍手をもらうのが大好きです。特にピアノ教室や先生に指導いただいたこともないので自己流です。この曲「むかし」は、オリジナル曲です。詩は、盲学校担任だった小川先生が僕の言葉を書きとめてつないで下さいました。どうぞ聞いてください。

福祉情報技術コーディネーター認定試験 対策講座・本試験実施

12 月 4 日（日）に福祉情報技術コーディネーター試験を実施します（事前登録制）。
３日及び４日の１２：００～１３：００の間，認定試験の窓口を設けます。
ご質問，ご要望のある方は，受付までお越しください。

・福祉情報技術コーディネーター試験受験料
1 級・・・8,400 円 / 2 級（A）（B）・・・5,250 円 / 3 級・・・3,150 円

Cozy ルームへようこそ！

2 日～4 日
ATAC カンファレンスの**期間中**,
Room 104　にて

「Cozy プロジェクト体験ルーム」を開設いたします。

「Cozy（コーズィー）」とは英語で「居心地の良い」という意味です。障害の有無に関わらず誰もが心地よくワクワクするような環境の提供を目指します。
パワーアップした大型万華鏡やシャボン玉発生器に加え、京都精華大学様との共同研究による新作も登場です。皆様，是非お立ち寄り下さい。

五大エンボディ株式会社

■懇親会
12 月 3 日（土）カンファレンス終了後（18:30-20:00）に会場内で懇親会を開催します。参加ご希望の方は，事前にお申込み下さい。参加費は5,000 円です。当日も若干数は受け付けますが，定員になり次第閉め切らせて頂きますので，ご了承下さい。

■託児・支援サービスについて
託児サービスのご利用は，事前にお申し込みいただいた方のみとさせて頂きます。当日のお申し込みは出来ませんのでご了承下さい。

■会場までのアクセス

京都駅まで
■関西国際空港→特急「はるか」で約 75 分
■大阪伊丹空港→リムジンバスで約 55 分
■首都圏→新幹線「のぞみ」で約 2 時間 15 分

会場まで
■京都駅→国際会館駅下車（地下鉄烏丸線で約 20 分）
地下鉄出入口 4-2 より，専用道路を通って，
国際会館のアネックスホールまでお越し下さい

約 500 台収容の駐車場も完備されています　（800 円／1 回）

受付　10:00 ～　アネックスホール玄関前　　**プリカンファレンス**

2日（金）	Room：Annex1	Room：展示会場	Room：B1	Room：B2
10:00 － 11:00			AAC 基礎講座 （有料セミナー）	福祉情報技術 コーディネーター 試験対策講座 （有料セミナー）
11:00 － 11:15				
11:15 － 12:15			■ AAC とは何か？ 中邑 賢龍（東京大学）	■過去の傾向 花岡 里美 （有限会社 エーティーマーケット）
12:15 － 13:15				
13:15 － 14:15		展示準備	■エイドを使わない コミュニケーション 坂井 聡（香川大学）	■模擬試験と解答 花岡 里美 （有限会社 エーティーマーケット）
14:15 － 14:30				
14:30 － 15:30		展示準備	■コミュニケーション エイドのすべて (1) ローテクエイドの使い方 坂井 聡（香川大学）	■模擬試験と解答 花岡 里美 （有限会社 エーティーマーケット）
15:30 － 15:45				
15:45 － 16:45		展示準備	■コミュニケーション エイドのすべて (2) ハイテクエイドの使い方 坂井 聡（香川大学）	■ Q&A 花岡 里美 （有限会社 エーティーマーケット）

事前にご登録いただいたコース以外の受講は
できませんので，ご了承下さい。

■：ATAC 企画セッション　○：一般公募セッション
●：企業セッション　★：特別セッション（一般公開）

プログラム

Room：C1	Room：C2	Room：F	Room：G
プレイケア リーダー養成講座 （有料セミナー）	東京大学 バリアフリー セミナー／ JEITA セミナー （無料公開セミナー） 資料代を別途頂く場合がございます	e-AT サポート （有料セミナー）	Ｗｅｂ アクセシビリティ （有料セミナー）
■遊ぶために必要な コミュニケーション 川崎 陽一 （プレイケアセンター）	『障害とサイエンス＆ テクノロジー』 ★障害とテクノロジー 中野 泰志（東京大学）	■臨床の基礎 「インテークから フォローアップまで 畠山 卓朗（星城大学）， 渡辺 崇史（日本福祉大学）	■これからの Web 活用の 可能性 - Ｗｅｂアクセシビリティ の基礎から応用まで - 石田 優子（クロッシング フィンガーズ 代表）
■遊ぶために必要な コミュニケーション 川崎 陽一 （プレイケアセンター）	★国のアクセシビリティへの 取り組み 澤野 弘（経済産業省）， 加藤 陽介（総務省） ★アクセシビリティの JIS 化 及びその後の展開・動向 四方田 正夫（JEITA）	■ IT サポータに 求められる基礎知識 （評価から制度利用まで） 畠山 卓朗（星城大学）， 渡辺 崇史（日本福祉大学）	■これからの Web 活用の 可能性 - Ｗｅｂアクセシビリティ の基礎から応用まで - 石田 優子（クロッシング フィンガーズ 代表）
	★支援技術機器の潜在的ニーズ と普及の実態（JEITA）		
■遊ぶための技術 川崎 陽一 （プレイケアセンター）	★科学をベースにした 支援技術の開発と産業の創生 中邑 賢龍（東京大学）	■ IT 支援マネジメント 畠山 卓朗（星城大学）， 渡辺 崇史（日本福祉大学）	■これからの Web 活用の 可能性 - Ｗｅｂアクセシビリティ の基礎から応用まで - 石田 優子（クロッシング フィンガーズ 代表）
	★障害者ニーズの科学的評価と 科学シーズ 近藤 武夫（東京大学）		
■遊ぶための技術 川崎 陽一 （プレイケアセンター）	★ユニバーサルデザインを 目指した産学連携研究の実際 金子 祐子（東陶機器株式会社）， 中野 泰志・布川 清彦（東京大学）	■ベテランから学ぶ サポート１０の ポイント 畠山 卓朗（星城大学）， 渡辺 崇史（日本福祉大学）	■これからの Web 活用の 可能性 - Ｗｅｂアクセシビリティ の基礎から応用まで - 石田 優子（クロッシング フィンガーズ 代表）

※当初，RoomH での開催を予定しておりました
JEITA セミナーは，東京大学バリアフリーセミナーと
同会場（Room：C2）にて開催される事となりました。

受付　8:15 ～　アネックスホール玄関前　メインカンファレンス

3日(土)	Room：Annex1	Room：展示会場	Room：B1	Room：B2
9:00 － 10:00	[■ Opening session] **障がい・コミュニケーション・テクノロジー** 畠山 卓朗（星城大学）， 中邑 賢龍（東京大学）			
10:00 － 10:30		展示		
10:30 － 11:30	[■ AAC 基礎・特別支援教育] **AAC や AT で役割を生み出すことの大切さに気づく** **統合教育や交流教育へのヒント** 中邑 賢龍（東京大学）		[■ AAC 基礎] **臨床における コミュニケーション 10 のポイント** 田中 栄一（八雲病院）	**● 1) スイッチ１ヶのＴＶリモコン 2) 小型２接点無線スイッチ（パソコン、環境制御装置に対応）3) 歯や歯茎に負担の少ないマウススティック** （有限会社しまだ福祉用具研）
11:30 － 11:45				
11:45 － 11:50	総務省の取り組みについて	平成 16-17 年度「障害者の IT 利活用支援の在り方に関する研究会」（総務省）においてまとめられた報告書の内容をご紹介します。		
11:50 － 12:10	**ATAC2005 の機器展示 早分かり／ Show&Tell** 中邑 賢龍（東京大学）	飛び入りでご参加いただける Show&Tell のコーナーもございます。お気軽にご参加下さい。	**Lunch on Session** ３日のお昼のセミナーには，軽食が用意されています。是非ご参加下さい。	
12:10 － 12:50	[★海外招待講演] 通訳有 **機械で産み出す言葉 Minspeak(R): A Key to Language** (Bruce Baker)	※東京大学バリアフリーセミナーの一環として行われるものです。		
12:50 － 13:00				
13:00 － 14:00	[■ AAC 中級] **子どもの発達とコミュニケーション：理屈からコミュニケーションを考える** 岩根 章夫（特定非営利活動法人 e-AT 利用促進協会 COMATO）		[■特別支援教育] **パワーポイントを使った 教材作り** 坂井 聡（香川大学）， 巖淵 守（広島大学）	**● 1 スイッチコミュニケーション総合セミナー** **～伝の心、心語り、レッツチャットと入力スイッチについて～** （パシフィックサプライ・日立製作所・ファンコム）（共同開催）
14:00 － 14:30		ポスターセッション		
14:30 － 15:30	**コンサート準備** （会場閉鎖）	展示 ～ 16:45	[■ AAC 実践・特別支援教育] **発達障害のある人への コミュニケーション支援の実際** （坂井 聡 プロデュース：谷口公彦・有元恭志・山本加津美・平林ルミ・橋倉佳代子）	
15:30 － 15:45				
15:45 － 16:45				**● VOCA ってどう使うの？** **～さまざまなＶＯＣＡの活用について～** （パシフィックサプライ株式会社） **12 月 4 日 (日) 9:45-10:45(会場 G) と同内容**
16:45-17:00				
17:00 － 18:15	**第一回 こころ大賞授賞式** **掛屋 剛志 君 コンサート**	**e-AT を使って絵を描く，文章を書く，人とコミュニケーションするなど，自分の夢を実現した人とそのサポータに贈られる賞です。また，マイクロソフトより，障害者支援の取り組みについての紹介も合わせて行われます。** 掛屋剛志君は 13 歳。第 2 回ゴールドコンサートでオリジナル曲「むかし」を歌い審査員特別賞を受賞。また，24 時間テレビでは武道館でも熱唱。		

■：ATAC 企画セッション　○：一般公募セッション
●：企業セッション　★：特別セッション（一般公開）

プログラム

Room：C1	Room：C2	Room：F	Room：G	Room：H
[■ e-AT 基礎] **Windows の隠れた 障害支援機能を学ぶ**(肢体不自由対応) 奥山 俊博（東京大学), 巖淵 守（広島大学）	[■ e-AT 基礎] **肢体不自由の人のための支援技術** 渡辺 崇史（日本福祉大学）	**●スイッチ一つでパソコン操作「オペレートナビの利用と実際」** （日本電気株式会社）	**○ IT サポートの実践** 三浦 雅光・ 横山 博司・ 佐藤 八郎	[■体験セミナー] **VOCA 体験セミナー** 坂井 聡（香川大学), 谷口 公彦 （香川県立高松養護学校） **【定員 20 名】** ～ 12:00
[■ e-AT 基礎] **Windows の隠れた障害支援機能を学ぶ（視覚・聴覚障害対応）** 金沢 真理（東京都盲人福祉協会), 近藤 武夫（東京大学）	[■ e-AT 実践] **IT サポータの素晴らしい実践** 渡辺崇史・畠山卓朗・田中栄一 プロデュース：大西俊介・濱昌代・星野史充	**● 1) 生活を豊かにする道具達 2) 頭部を中心としたバランスシーティング** （ＮＰＯ「生活を豊かにする」障害児・者支援福祉協会 (通称名　ポップンクラブ)）	**○コミュニケーションエイドの開発・利用とその効果** 大杉 成喜・ 平林 あゆ子・ 永見 修一	[■体験セミナー] **展示会場を回って機器の目利きになるツアー** 中邑 賢龍・奥山 俊博 （東京大学） **【定員 20 名】**
[■ e-AT 基礎] **パソコン入力を補助する様々な支援技術（代替キーボードからスクリーンリーダまで）** 奥山 俊博・高橋 幸太郎	↓		**○重度身体障害用コミュニケーションエイドの開発** 川島 一郎・ 多々良 哲也・ 鴨下賢一	[■体験セミナー] **視覚障害擬似体験** 金沢 真理 （東京都盲人福祉協会） **【定員 30 名】**
[■ e-AT 基礎・特別支援教育] **発達障害の子どものパソコン利用のポイント** 巖淵 守（広島大学）	[■ e-AT 上級] **面白い自作支援機器 - 売っていない物を自作する -** 石川雅章（TREE-WARE）	**●ユーザの皆さんのためのツール（道具）** （有限会社 エーティーマーケット）	**○各地に広がるIT サポート** 岡本 悟・ 谷口 博朗	

18：30 － 20：00

懇親会

会館内 1F『メインラウンジ』にて
（事前申し込み　別途 5,000 円）

[体験セミナーについて]
＊定員制となっております。
当日の朝，ATAC 受付において予約を受け付けます。ご希望される方は，お早めに受付においで下さい。先着順です。

受付　8:00 ～　アネックスホール玄関前　　**メインカンファレンス**

4日 (日)	Room：Annex1	Room：展示会場	Room：B1	Room：B2
8:30 － 9:30	［■ e-AT 応用］ **携帯電話を利用した生活支援** 坂井 聡（香川大学）， 奥山 俊博（東京大学）	展示	［★厚生労働科学研究発表会］ **盲ろう者の自立と社会参加を推進するための機器開発・改良支援システムならびに中間支援者養成プログラム作成に関する研究** （福島研究室）	［■障害のある子どもを大学へ］ **英国の障害学生支援の実態** EA Draffan （マンチェスター大学）， 中邑 賢龍（東京大学）， 巖淵 守（広島大学）
9:30 － 9:45				
9:45 － 10:45	［■障害を理解する］ **視覚障害に対する誤解はありませんか？** 金沢 真理・小松 聰子・ 木村 由美・中邑 賢龍			［■障害のある子どもを大学へ］ **日本および米国の障害学生支援の実態** 巖淵 守（広島大学）， 渡辺 崇史（日本福祉大学）， 田中 芳則（広島大学）
10:45 － 11:15		ポスターセッション	～ 11:05	
11:15 － 12:15	［★海外招待講演］通訳有 **より簡単な支援技術へ Moving towards more simple Assistive Technology systems** （Paul Blenkhorn）			
12:15 － 13:00			**教師のネットワーク（食事持寄りの自由な意見交換会）** 中邑 賢龍（東京大学）	**IT サポータのネットワーク（食事持寄りの自由な意見交換会）** 畠山 卓朗（星城大学）， 渡辺 崇史（日本福祉大学）
13:00 － 13:50	［■ AAC 実践・特別支援教育］ **PECS によるコミュニケーション指導 –その効果と可能性–** 藤野 博（東京学芸大学）	展示	［★厚生労働科学研究発表会］ **情報共有で障害のある人とのコミュニケーションを変える** 中邑 賢龍（東京大学）	［■ e-AT 上級］ **最新の支援技術製品・制度等の動向 RehaCare と CTG 報告** 巖淵 守（広島大学）
13:50 － 14:00				
14:00 － 14:50	［■ AAC 基礎・特別支援教育］ **コミュニケーションシンボルとは？** 藤澤 和子（京都府立向日が丘養護学校），中邑 賢龍（東京大学）		［★厚生労働科学研究発表会］ **情報共有を保障する道具・サポートブック** 丸岡 玲子，坂井 聡（香川大学）	試験準備（部屋閉鎖）
14:50 － 15:00				
15:00 － 15:50	［■ AAC 実践・特別支援教育］ **コミュニケーションシンボルの使い方** 藤澤 和子（京都府立向日が丘養護学校），中邑 賢龍（東京大学）		［★厚生労働科学研究発表会］ **ハイテクを利用した情報共有・e-PP システム** 巖淵 守（広島大学）	**福祉情報技術コーディネーター認定試験** （事前申込者のみ） ～ 18:30
16:00-16:15	［■ Closing Session］ ネットワークを使った問題解決			

－ Paul Blenkhom 博士
マンチェスター大学の支援技術領域教授。視覚障害向けソフトや重度重複障害向けゲームなどの開発をてがけています。欧州の支援技術研究の中心的存在。単純で面白いソフトウェアの開発がこれからのポイントと語っておられます。
※厚生労働科学研究推進事業の一つとして実施されるものです。

※厚生労働科学研究発表会はＡＴＡＣと合わせて実施されるもので，無料で一般公開されています。

〈福祉情報技術コーディネーター認定試験申込，お問い合わせ等について〉

・３日及び４日の１２：００～１３：００の間，認定試験の窓口を設けます。ご要望のある方は，受付までお越しください (申込者のみ)。

■：ATAC 企画セッション　○：一般公募セッション
●：企業セッション　★：特別セッション（一般公開）

プログラム

Room : C1	Room : C2	Room : F	Room : G
[■ e-AT 上級] **姿勢保持とスイッチ・機器のフィッティング** 田中 栄一（八雲病院）	[■ AAC 実践・特別支援教育] **肢体不自由の子どもへのＡＴ／ＡＡＣ適用** 金森 克浩 プロデュース： 金森 克浩・大前 洋介	**●言語の表出に障害を持つ人やキーボード入力が苦手な人のためのメールソフト　そらメール** （ＳＯＲＡ有限会社）	**●わからないをわかるようにするＰＣＳシンボル、ボードメーカーの紹介と活用事例** （株式会社 アクセスインターナショナル）
[■ e-AT 基礎] **介護のための小さなハイテク** 奥山 俊博（東京大学）	[■ AAC 実践・特別支援教育] **知的障害のある子どもへのＡＴ／ＡＡＣ適用** 金森 克浩 プロデュース： 河野 俊寛・原 宏和）	**●発達障害児（者）向けモバイルコミュニケーションシステムについて** （株式会社アルカディア）	**● VOCA ってどう使うの？** **～さまざまなＶＯＣＡの活用について～** （パシフィックサプライ株式会社） **12 月 3 日 (土)** **15:45-16:45(会場 B2) と同内容**
OT のネットワーク **(食事持寄りの自由な意見交換会)** 田中 栄一（八雲病院）	**福祉施設・病院・看護介護関係者のネットワーク** **(食事持寄りの自由な意見交換会)** 奥山 俊博（東京大学）	**家族のネットワーク** **(食事持寄りの自由な意見交換会)** 坂井 聡（香川大学）	
[■ e-AT 基礎・特別支援教育] **ロービジョンと生活支援技術** 小松 聰子	[■ AAC 実践・特別支援教育] **重度重複障害とおもちゃ** 金森 克浩 プロデュース： 小松 敬典・外山 世志之・禿 嘉人	**○コミュニケーションの環境作り** 森岡 典子，安田 順子	**○新しい技術の教育や福祉への活用** 中林 稔尭，李 昭洋
[■ e-AT 基礎・特別支援教育] **全盲と生活支援技術** 金沢 真理（東京都盲人福祉協会）	[■ AAC 実践・特別支援教育] **発達障害のある子どもへのＡＴ／ＡＡＣ適用** 金森 克浩 プロデュース： 西谷 淳・太田 容次	**○様々なコミュニケーションの取り組み** 津田 要，江田 裕介，本田 祐介	**○子どもに応じた楽しい機器とは？** 栗林 孝雄，川口 吾妻
○視覚障害のある人の情報支援 松本 三千人，高市 瑞穂	[■ e-AT 基礎] **高齢者と玩具** 小林 るつ子（玩具福祉学会）		[■ e-AT 実践] **もの・道具，環境でできること** 増澤 高志（生活工房）

2日（金）
＊プリカンファレンス

■ Room：B1　11：15～12：15
［AAC 基礎講座］
AAC とは何か？

中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター）

障害のある人とのコミュニケーションの意義からその方法まで，事例を交えながら実践的に紹介する。
AAC についてこれから学びたい人も，既に現場で活用されている人にも，分かりやすく楽しい内容である。是非，明日からすぐに使える知識を持ち帰ってもらいたい。

■ Room：B1　13：15～14：15
［AAC 基礎講座］
エイドを使わないコミュニケーション

坂井 聡（香川大学 教育学部 障害児教育講座）

コミュニケーションエイドを買ったけれど，その使い方に行き詰っている人もいる。障がいのある人とコミュニケーションするために必要なものはエイドだけではない。ここでは，エイドを使わないコミュニケーションについて考えてみることで，コミュニケーションするということはどういうことなのかについて考えてみる。エイドを使わないコミュニケーション技術が身につくことで，エイドの使い方が見えるはずである。

■ Room：B1　14：30～16：45
［AAC 基礎講座］
コミュニケーションエイドのすべて

坂井 聡（香川大学 教育学部 障害児教育講座）

コミュニケーションエイドには，ローテクエイドからハイテクエイドまで様々なものがあります。そのいくつかを取り入れながら，障害に応じたエイドの選び方を学びます。

■ Room：B2　11：15～16：45
福祉情報技術コーディネーター
試験対策講座

花岡 里美（有限会社エーティーマーケット ）

福祉情報技術コーディネータ試験 1 級から 3 級の出題傾向を解説。模擬試験も実施する。今回 ATAC の最終日には試験も予定されている。

■ Room：C1　11：15～16：:45
プレイケアリーダー養成講座
「遊ぶために必要なコミュニケーション」

川崎 陽一（プレイケアセンター）

日々のレクリエーションにお困りの方に是非参加頂きたい。人に遊びを伝導するコミュニケーションスキル、具体的な遊びを習得するスキル（技術）、なぜ行うかというロジック（理論）について、解りやすく実践を交えながら学ぶことができる。また、修了者には、プレイケアリーダーの資格認定書が発行される。
＜協力：玩具メーカー各社＞

★ Room：C2　11：15～16：45
東京大学バリアフリーセミナー
『障害とサイエンス＆テクノロジー』

東京大学先端科学技術研究センター
バリアフリープロジェクト，
共催：JEITA（社団法人　電子情報技術産業協会）

東京大学先端科学技術研究センターバリアフリープロジェクトが実施してきた 4 年間の研究成果の一部を公開する。今後のバリアフリー研究の進展に寄与できることを願い，様々な領域の研究者が科学的な視点でバリアフリー研究の最前線と今後の方向性を語る。
また，電子情報技術産業協会アクセシビリティ委員会からは，アクセシビリティ JIS の解説や，市場規模等の調査などが報告される。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

11：15～12：15
障害とテクノロジー　中野 泰志（東京大学）

13：15～13：55【JEITA セミナー】
国のアクセシビリティへの取り組み

情報アクセシビリティに関する経済産業省の取り組み　澤野 弘（経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課）

総務省の情報バリアフリー施策について
加藤 陽介（総務省 情報通信政策局 情報通信利用促進課 高齢・障害者利用支援室）

13：55～14：15【JEITA セミナー】
アクセシビリティの JIS 化及び
その後の展開・動向

四方田 正夫（JEITA ＡＣ／ UD 専門委員会 副委員長，富士ゼロックス株式会社）

2004 年 5 月に発行された JIS X8341-2(第 2 部：情報処理装置) 規格の概要を解説するとともに、この規格を有効利用していただけるよう、JEITA で準備しているチェックリストやガイドブックの取り組み等を紹介する。

14：15～14：35【JEITA セミナー】
支援技術機器の潜在的ニーズと普及の実態

中邑 賢龍（JEITA ＡＣ／ＵＤ専門委員会 委員長，東京大学）

14：45～15：15
科学をベースにした支援技術の開発と
産業の創生　中邑 賢龍（東京大学）

15：15～15：45
障害者ニーズの科学的評価と科学シーズ

近藤 武夫（東京大学）

15：45～16：45
ユニバーサルデザインを目指した
産学連携研究の実際

商品開発におけるユニバーサルデザイン
金子 祐子（東陶機器株式会社ＵＤ研究所シーン検証生活観察グループ）

ニーズとシーズをつなげる架け橋としての科学的エビデンス
中野 泰志・布川 清彦（東京大学）

■ Room：F　11：15～16：45
e-AT サポート

畠山 卓朗（星城大学 リハビリテーション学部），渡辺 崇史（日本福祉大学 福祉テクノロジーセンター）

e-AT サポートは単に IT の知識が豊富にあればうまく事が進むとは言えない。対象者の障がい状況やニーズの把握，利用環境のチェック，資金的援助の有無に関する情報，社会資源の活用など様々なポイントを押さえておく必要がある。このセッションでは e-AT サポート未経験者から経験者までを対象とし，ロールプレイやグループワークを交えながら e-AT サポートにおける支援のポイントを伝える。

■ Room：G　11：15～16：45
これからの Web 活用の可能性
Web アクセシビリティの基礎から応用まで

石田 優子（クロッシングフィンガーズ 代表）

近年，高齢者，障害者の Web アクセシビリティが問題となっている。2004 年に JIS X 8341-3（高齢者・障害者等配慮設計指針– 情報通信における機器，ソフトウェア及びサービス–第 3 部：ウェブコンテンツ）が公示され，その概念が浸透しつつあるが，まだ一般企業にまでは広がりを見せていない。そのひとつの理由として高齢者，障害者など当事者からのニーズによって Web アクセシビリティを向上させて行くという取り組み方がなされていないことが考えられる。ここでは Web アクセシビリティの概念，技術とともに，当事者のエンパワーメントによる Web アクセシビリティとは何かを考察する。

3日(土)
＊メインカンファレンス

■ Room：Annex1　9：00～10：00
［オープニングセッション］
障がい･コミュニケーション･テクノロジー

畠山 卓朗（星城大学 リハビリテーション学部），
中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター），

重い障がいのある方にとって，コミュニケーションはどのような意味を持つのだろう。自分の気持ちを伝える，相手の言葉に耳を傾ける... しかし，それ以前に，誰かと話したいという気持ちがなければコミュニケーションは始まらない。ここでは，コミュニケーションに対する動機付けはどこから生まれてくるのか，コミュニケーションがとれるようになることで日々の生活にどのような変化が起きるのかをエピソードを交えながら話を進める。

■ Room：Annex1　10：30～11：30
［AAC 基礎・特別支援教育］
AAC や AT で役割を生み出すことの大切さに気づく統合教育や交流教育へのヒント

中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター）

統合教育や交流教育の理念を論じるのでなく，AAC や AT といった技術でどのように支えられるかを論じる。

■ Room：B1　10：30～11：30
［ AAC 基礎］
臨床におけるコミュニケーション 10 のポイント

田中 栄一（独立行政法人国立病院機構八雲病院）

臨床現場では様々な人に向かい合う必要があります。少しの言葉かけで関わりが上手くいかなくなったり，一方，コミュニケーションが深まったりします。そのポイントを臨床経験をもとにお話します。

● Room：B2　10：30～11：30
1）スイッチ１ヶのＴＶリモコン
2）小型２接点無線スイッチ（パソコン，環境制御装置に対応）
3）歯や歯茎に負担の少ないマウススティック

嶋田 裕之・高橋 宏文
（有限会社 しまだ福祉用具研），
寺師 良輝（総合せき損センター）

弊社は障害のある方や高齢の方の「快適・自立・就労」そして「安全」のために，貢献しつづける会社でありたいと考えています。今回紹介させていただく「テレビトコール（スイッチ一つでテレビの電源ＯＮ/ＯＦＦやチャンネルＵＰ，呼出し可能なリモコン）」や「コミュニックＰＣ（オペレートナビがインストールされたパソコンを小型無線スイッチで操作できる入力装置）・コミュニックＳＷ（電動ベッドやテレビ，照明など様々な生活用品を小型無線スイッチで操作できる入力装置）」，「ソフトフィットマウススティック（弾性歯科材料のマウスピースを付属した安全軽量なマウススティック）」など，生活を支援する各種コミュニケーション機器の紹介を致します。

■ Room：C1　10：30～11：30
［e-AT 基礎］
Windows の隠れた障害支援機能を学ぶ（肢体不自由対応）

奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター），
巖淵 守（広島大学大学院教育学研究科）

Windows の持つ基本機能を活用することで，パソコンを少しでも楽に操作できるように支援してみてはどうでしょうか？また，既に IT サポーターやパソボラとして活動している方にとっては，知っておくべき知識を整理・確認するセミナーです。分かっているつもりでも知らないことがたくさんあることに気づけるかも知れません。さあ，一緒にコントロールパネルを開き，「ユーザー補助」などの機能を活用してみましょう！
分かりやすい専用のテキスト（1,050 円別売）を使って具体的に設定などを学べるので，パソコン初心者の方にも気軽に参加していただけます。

参考テキスト（当日，販売いたします）
『障害者や高齢者の IT サポータ向け
研修テキスト
パソコン・アクセシビリティ入門』
1,050 円

■ Room：C2　10：30～11：30
［e-AT 基礎］
肢体不自由の人のための支援技術

渡辺 崇史（日本福祉大学 福祉テクノロジーセンター）

ここでは，操作スイッチ，呼出し装置，パソコン，コミュニケーション機器および関連する福祉用具を中心に，肢体不自由の人のための支援技術の特徴や比較方法などの基礎的な知識を紹介する。さらに，利用者に応じた機器や道具を選び出すために，機器操作に影響する障がいの特徴と機器との関係，考慮しなければならない点などについても実際の利用事例を示しながら理解を深める。

● Room：F　10：30～11：30
スイッチ一つでパソコン操作「オペレートナビの利用と実際」

鈴木 信幸（日本電気株式会社）

上肢障害者向け Windows 操作支援ソフト「オペレートナビ EX(Ver2.1)」を利用することで，スイッチ一つでパソコンを操作することができます。ALS，筋ジス，脳性まひ，頚椎損傷など重度の障害を持つ方がキーボードやマウスの動きをスイッチだけで操作し，パソコンを利用することができます。パソコンは，インターネットの検索やメールや TV 録画，視聴などさまざまなコミュニケーションのツールです。「オペレートナビ」の単純で豊富な機能を紹介すると共に，パソコンの利用方法やソフトの設定方法，スイッチ，支援時の問題点などを紹介します。

○ Room：G　10：30～11：30
ＩＴサポートの実践

今日も元気に福祉情報技術コーディネーター（福情コという）が行く

三浦 雅光（レクリエーション倶楽部くらりねっと）

2 年前，私はパソコンインストラクター 1 級を目指し，パソコンスクールでの勉強を始めた。その後，「福祉情報技術コーディネーター」の資格を知り，取得した。障害者がパソコンを使うためにはいろいろな情報機器があり，障害者はそれらを使ってパソコンを利用していることを知った。また，パソコンはコミュニケーションにおいて大変便利な道具であることも知った。現在，私は 30 人の元気な障害者の夢を叶える手伝いをしている。ここでは，自分の経験を踏まえ福情コの活動を紹介する。

チャレンジ！パソコン！！「パソコンクラブ」

横山 博司（横山コンピュータ）

私は左下腿切断の障害者である。かつては IT 業界で勤務していたが，障害者が健常者と働くことの難しさを痛感した。しかし，障害者がパソコンを使って健常者と同じ土俵で働き，生きがいをもって経済的にも自立することは大切ではないだろうか。そこで，自らの IT 経験を活かして障害者の自立を支援する目的で，今年 5 月に貝塚市障害者生活支援センターにパソコンクラブを立ち上げた。プロの技術を目指して，パソコンの基本技術の修得に重点を置き，障害者の障害者による障害者のためのワークショップを行っている。ここでは，パソコンクラブの目標とこれまでの取り組み，その中で見えてきた課題について紹介したい。

アクティビティ・ツアーズ 2005 の実践報告～支援方法の確立と支援者のスキルアップ～

佐藤 八郎

AAC に関する情報や機器はいくつも選べる時代になった。しかし書物や講習で学ぶだけでは，実際のコミュニケーション支援場面ではうまく使いこなせない。ここでは，「アクティビティ・ツアーズ」へ支援者として参加した体験を，「支援方法の確立と支援者のスキルアップの困難さ」をテーマに報告する。また，実際のコミュニケーション支援場面で支援者に求められるものについて，参加者と一緒に考えていきたい。

■ Room：H　10：30～12：00
［体験セミナー］

VOCA 体験セミナー

坂井 聡（香川大学 教育学部 障害児教育講座），
谷口 公彦（香川県立高松養護学校）

ＶＯＣＡを子どもに使わせる前に，ＶＯＣＡを使うことを体験しておくことは重要である。機械の発する声で道を尋ねるなどの経験を通し，ＶＯＣＡの利用について感じてもらう。

［定員２０名］＊当日の朝，ATAC 受付において予約を受け付けます。ご希望される方は，お早めに受付においで下さい。先着順です。

■ Room：Annex1　11：45～12：10
［Show&Tell］

ATAC2005 の機器展示早分かり

中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター）

希望者がステージの上で１分程度語る，紹介コーナー。紹介されるものは，新しい製品，楽しいイベント，出版物，自作の道具やソフト，さらにはコミュニケーションの工夫など様々である。 紹介したい人も，情報を得たい人も，気軽に参加できるセッション。

■ Room：Annex1　12：10～12：50
［海外招待講演］通訳有

機械で産み出す言葉　Minspeak(R): A Key to Language

Bruce Baker
(Semantic Compaction Systems)

発話ができないなど，コミュニケーションに困難を抱える人との会話を可能にする，会話を豊かにすることに対して，拡大・代替コミュニケーション（ＡＡＣ）の技法や技術がとても役立ちます。しかし，今使っているＡＡＣの方法は，簡単なニーズのやりとりを超えて日常会話や議論をするために十分でしょうか？それらＡＡＣの方法で，タイミングよく，効率的に，多様な表現で会話できているでしょうか？ＡＡＣは「言語」やその発達をもとにして考えれば，はるかに優れたものになると唱える言語学者の Baker 氏を招き，ＡＡＣが抱える様々な課題とその解決法について紹介していただきます。ここでは，彼が開発，これまでに８ヶ国語で販売され，現在，日本語化が進められている符号化システム Minspeak についてもご説明いただきます。彼のシステムが組み込まれた機器を用いてコミュニケーションする人との会話が非常に円滑で，また，場面に関係なく完璧な文法で会話しているという事実に驚く人は世界中に少なくありません。

■ Room：Annex1　13：00～14：30
［AAC 中級］

子どもの発達とコミュニケーション
：理屈からコミュニケーションを考える

岩根 章夫（特定非営利活動法人
e-AT 利用促進協会 COMATO）

「あなたの気持ちを表してくれたらどんなにいいだろう」，「あなたのことをもっと知りたい」。重い障害のある子どもと過ごす時，多くの人がそんな思いをもつ。重い障害のある子どもとのコミュニケーションは不確かで，実感のもちにくいものである。コミュニケーションがうまくいかない時，私たちは私たち自身の「感性」や障害のある人の「障害」そのものに原因を求めるが，それだけだろうか？ここでは障害のある子どもとのコミュニケーションを理屈から考えていく。

■ Room：B1　13：00～14：00
［特別支援教育］

パワーポイントを使った教材作り

坂井 聡（香川大学 教育学部 障害児教育講座），
巖淵 守（広島大学大学院教育学研究科）

知的障害のある人に授業をする際にどのように教材を工夫すればいいのだろうか。プレゼンテーション用のソフトであるパワーポイントには，画面に集中しやすくするためのいろいろな効果が備わっている。ここでは，パワーポイントを使ってどのように教材などを作るのかを体験してもらう。

■ Room：B1　14：30～16：45
［AAC 実践・特別支援教育］

発達障害のある人への
コミュニケーション支援の実際

坂井 聡　プロデュース

このセッションでは，発達障害のある子どものコミュニケーション支援について考えて見ます。実際にどのように使われているのかを実践している人に語ってもらいます。これならできるかもというアイデアを，このセッションで学んでいただければと思っています。会場からの質問にも答えていただきながら進めていきたいと思っています。

技術を障害児のために
有元 恭志（岡山県英田郡西粟倉小学校）
身体障害のある生徒とのコミュニケーション
谷口 公彦（香川県立高松養護学校）
VOCA や PECS を使った
コミュニケーション　山本 加津美
知的障害のある児童への
ＶＯＣＡの導入と変化　平林 ルミ

● Room：B2　13：00～15：30

１スイッチコミュニケーション
総合セミナー　～伝の心，心語り，レッツチャットと入力スイッチについて～

藤田 大介（パシフィックサプライ株式会社），
小澤 邦昭　（株式会社日立製作所），
松尾 光晴　（ファンコム株式会社）　共同開催

障害者のコミュニケーションの可能性を拡げる「意志伝達装置　伝の心と心語り」，コミュニケーションの本質を追求した「携帯用会話補助装置　レッツ・チャット」，そして障害者が機器を操作するために不可欠となる様々な「入力スイッチ」。
これらコミュニケーションに重要な機器を開発・販売する３社合同のセミナーです。AAC 初心者の方から中級者の方まで幅広く受講して頂けるよう，１スイッチによるコミュニケーションの基本について導入事例を交えながらご紹介します。
セミナーでは，（１）１スイッチコミュニケーションの概要，（２）各種入力スイッチの特徴と導入例，（３）伝の心，心語り，レッツ・チャットの特徴と導入例，（４）グループ毎の機器実習の順に進めます。

３社合同開催の特徴を活かし，より体系的に機器導入の流れを理解して頂きます。

● Room：B2　15：45～16：45

VOCA ってどう使うの？
～さまざまな VOCA の活用について～

松井 由起子（パシフィックサプライ株式会社）

VOCA が学校や生活で活用される機会が増えてきています。「でももっと違った活用ができるのでは・・？」「他の人はどんな使い方をしているんだろう？」という声をよくお聞きします。VOCA はとてもシンプルなエイドです。録音する言葉や活用の方法で，子ども達の活動や経験をさらに広げる大きな可能性を持っています。さらに VOCA の活用の幅を広げていただくため，様々な VOCA の実際の活用場面のご紹介をさせていただきます。
（12 月 4 日（日）の 9:45 ～ 10:45
（会場Ｇ）と同じ内容です）

■ Room：C1　13：00～14：00
[e-AT 基礎]
Windows の隠れた障害支援機能を学ぶ（視覚・聴覚障害対応）

金沢 真理（社団法人 東京都盲人福祉協会），
近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター）

Windows には障害のある人のパソコン利用を助ける機能が数多く含まれているが，多くの人に知られていないのが実情である。例えば，画面を拡大反転するなど視覚障害のある人に便利な機能も多い。具体的な操作を示しながらパソコン初心者の方にも気軽に参加できるよう進行する。

参考テキスト（当日，販売いたします）
『障害者や高齢者の IT サポータ向け
研修テキスト
パソコン・アクセシビリティ入門』
1,050 円

■ Room：C1　14：30～15：30
[e-AT 基礎]
パソコン入力を補助する様々な支援技術（代替キーボードからスクリーンリーダまで）

奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター），
高橋 幸太郎（香川大学大学院）

パソコンの操作を補助する様々な装置やソフトウェアが開発されている。ここでは，そのいくつかを実際に示しながら紹介する。

■ Room：C1　15：45～16：45
[e-AT 基礎・特別支援教育]
**発達障害の子どもの
パソコン利用のポイント**

巖淵 守（広島大学大学院教育学研究科）

ＬＤやＡＤＨＤの子どもたちに役立つ様々なパソコンソフトのデモを通して，彼らの教育可能性を考える。

■ Room：C1　13：00～15：30
[e-AT 実践]
ＩＴサポータの素晴らしい実践

渡辺 崇史，畠山 卓朗，田中 栄一　プロデュース

素晴らしいＩＴサポートとは何か？単にパソコンや携帯電話などの情報技術を活用することだけが目的ではない。何らかの障がいを持つ人がＩＴに出会うことによって，人や社会に出会い，そして自分らしい生活に出会うことこそ重要である。ここではサポートの成功・失敗事例を紹介し，サポートする人に必要な技術や人的資源の活用，支援のカンどころなどを伝える。

障害があるお子さんとその家族支援の立場から
大西 俊介（障害支援団体「といくらと」代表）
ＯＴとして難病の方をはじめとする在宅支援の立場から
濱 昌代（石川県リハビリテーションセンター
バリアフリー推進工房）
視覚障害がある方の支援の立場から
星野 史充（株式会社 富士通中部システムズ，名古屋盲人情報文化センター）

■ Room：C2　15：45～16：45
[e-AT 上級]
**面白い自作支援機器
–売ってない物を自作する–**

石川 雅章（TREE-WARE）

市販のものでは手が届かない部分を自作することで，障害のある人の可能性はさらに広がっていく。ここでは，様々な自作機器を紹介すると同時に，その技術や発想のあり方についても論じる。

● Room：F　13：00～14：00
生活を豊かにする道具達

村上　潤（NPO「生活を豊かにする」障害児・者支援福祉協会／通称名 ポップンクラブ）

「日常生活を豊かにする道具」というキーワードをコンセプトに様々な「物」を創ると，それまで見れていなかった様々なことが見え，本当の意味で「日常的な生活を豊か」にしてくれるヒントがあったり，知らず知らずのうちに「機能トレーニング」をしていたり・・・　そして，そのトレーニングは「限りなく楽しいトレーニング」であり「限りなく日常生活に溶け込んだトレーニング」にもなるのです。それらの具体的ケースを見て頂き，道具があるからこそ広がる世界を紹介いたします。

● Room：F　14：30～15：30
頭部を中心としたバランスシーティング

村上　潤（NPO「生活を豊かにする」障害児・者支援福祉協会／通称名 ポップンクラブ）

本当は，もっと出来る子なのに，長続きしない。始めはいいけど，すぐに身体が前に倒れてしまう。
お尻がずれちゃう。頭が倒れる。椅子に座っていてこんな悩みをお持ちの方，自分の座らせ方が悪いから？なんて，落ち込んでいませんか？　いいえ違います！　身体が崩れるのは，本人のやる気や先生，親御さんの座らせ方が悪いからではありません！
もっと違うところに根本的な原因があったのです！元々，股関節を屈曲させた座位姿勢では，骨盤はとても起こしにくいのです。骨格だけをイメージして座位姿勢を考えるのではなく，骨格を取り巻く筋肉群等をイメージすることで，様々な事が見えてきます。そして，シーティングの本質が見えれば，本当に大切な「ボディイメージ」へとつながっていくのです。骨盤を垂直に起こさなくても活動的な姿勢になれます。それまでの骨盤中心のシーティングに疑問を持ち，長年かけて現場の方々と一緒に取り組んでわかってきた全く新しい考え方を，「バランスシーティング」としてまとめましたので，その概念をビデオ症例等を交え解説します。

● Room：F　15：45～16：45
ユーザの皆さんのためのツール（道具）

花岡 里美（有限会社 エーティーマーケット）

エーティーマーケットでは，ユーザの皆様からのリクエストによる製品をお取り扱いしています。「SwitchXS（スイッチ XS）と LayoutKitchen（レイアウトキッチン）」は，Mac OSX を利用したい！という強いユーザの方々の声からローカライズをしたオランダ製の製品です。日本でユーザ 1 号の MES 関東・相原誠氏に，弊社の契約アドバイザーとして，メールやデモンストレーション等の活動をサポートして頂いている様子や彼の使用方法をご紹介致します。また，未来のアドバイザー候補のお子さんの学校や家庭での様子，障害の重いお子さんのための AT 機器やコンピュータの使用方法等，様々なソリューション（解決方法）をお届け致します。

○ Room：G　13：00～14：00
コミュニケーションエイドの開発・利用とその効果

高度シンボルコミュニケーション・デバイス「T・S」の開発

大杉 成喜（独立行政法人国立特殊教育総合研究所）

シンボルを選択して発声させる VOCA と，入力した文字や文章を発声させる VOCA の中間段階の VOCA を開発した。それには，文章作成入門期の子どもが使用しやすいよう「単語予測機能」と「シンボルかな混じり文提示機能」を搭載した。かなは，学校・家庭場面で使用することを想定した語彙を収録し，シンボルは，使用する子どもと周りの子どものどちらにも理解しやすくするため，マンガ文化を取り入れたものを使用した。ポスター発表と合わせて行う。

自閉性障害と VOCA：症例 A 児のコミュニケーションの発達過程

平林 あゆ子（名古屋女子大学）

A 児は生後まもなく結節性硬化症と診断され，多動や自閉症状がみられた。A 児は，電子音や映像に関心を示すため，VOCA を導入して話しことばの獲得を試みた。その結果，初診時のハミング表現から明瞭な話しことばへと発展しており，周りの人との触れ合いや会話の場面（相互作用）は増加し，パニックを起こすことも減少した。このセミナーではその経過を報告する。

トーキングエイド IT の養護学校での活用事例

永見 修一（山梨県立甲府養護学校），
菊島 喜人（山梨県立甲府養護学校）

本校では平成 16 年 10 月から株式会社ナムコ，テクノツール株式会社の協力のもと，携帯用会話補助装置に携帯電話（メール含む）が搭載された「トーキングエイド IT」の学校での活用場面について研究を進めている。約 1 年間の取り組みの中で，2 名の生徒がトーキングエイド IT を授業場面や日常生活場面で使用した。事例を交えながら，学校での活用場面について提案したい。併せて，平成 15 年度より AT（支援技術）

相談窓口を開設し，コミュニケーションエイドなどの支援機器やソフトウエアの活用や相談に応じてきた経過についても報告する。

○ Room：G　14：30～15：30
重度身体障害者用 コミュニケーションエイドの開発

お待たせしました！重度身体障害児・者のための新しい意思伝達装置「ボイスアシスト：仮称」の登場です。–操作性の開発と評価について–

川島 一郎（明電ソフトウエア株式会社），
鴨下 賢一（静岡県立こども病院），
多々良 哲也（静岡県静岡工業技術センター）

携帯用会話補助装置トークアシストは，静岡県静岡工業技術センター，静岡県立こども病院，明電ソフトウエアの３者で発達障害児童向けに開発し，2002 年３月より販売してきた。しかし，重度の身体障害のある人からも使ってみたい，現状の学齢児童向けの言葉だけでなく，成人向けの言葉を追加し継続的にトークアシストを使用したい，という要望が挙げられてきた。そこで，重度身体障害児・者のための意思伝達装置「ボイスアシスト」を開発したので報告する。

お待たせしました！重度身体障害児・者のための新しい意思伝達装置「ボイスアシスト：仮称」の登場です。–イラストの開発と評価について–

多々良 哲也（静岡県静岡工業技術センター），
鴨下 賢一（静岡県立こども病院），
川島 一郎（明電ソフトウエア株式会社）

重度の身体障害がある人にも利用可能な意思伝達装置「ボイスアシスト」を開発した。ここでは「イラストの開発と評価について」説明する。表示される文字やイラストは，重度身体障害のある人や介護者等からの意見を反映したものを登録した。ボイスアシストの特徴は，高齢者や色覚障害者にも認知しやすいように開発されたイラストを使用していること，使用者の負担を軽減できるスキャン方法を採用したこと，使用者が自由にカスタマイズできること等である。使用者の事例とあわせて紹介する。

お待たせしました！重度身体障害児・者のための新しい意思伝達装置「ボイスアシスト：仮称」の登場です。–開発の経緯について–

鴨下 賢一（静岡県立こども病院），
多々良 哲也（静岡県静岡工業技術センター），
川島 一郎（明電ソフトウエア株式会社）

重度の身体障害がある人にも利用可能な意思伝達装置「ボイスアシスト」を開発した。これは，既に製品化されているトークアシストの機能を外部スイッチでコントロールできるようにしたものである。主な特徴は，使用者の負担を軽減できるスキャン方法を採用したこと，使用者自ら電源を入れることを可能にしたこと，「うなずきボタン」を搭載していること等である。ここではボイスアシストの「操作性の開発と評価について」，使用者の事例とあわせて紹介する。

○ Room：G　15：45～16：45
各地に各地に広がるＩＴサポート

IT を活用した就労支援（三重）

岡本 悟（ｅふぉーらむ）

三重では，IT を活用した障害者の就労支援プロジェクト「ｅふぉーらむ」が設立され，2002 年から在宅就労のサポートを行っている。昨年に引き続き，今回もその事例発表を行う。

「生活を豊かにする」障害児・者支援福祉協会の活動案内（大阪）

谷口博朗（生活を豊かにする障害児・者支援福祉協会），村上 潤（（株）ひげ工房）

肢体不自由の子ども達や高齢者たちには，自分の体が思う様に動かないことで「やりたいのに，やれないこと」が沢山ある。当協会では，障害者本人及び高齢者とその家族の「生活を豊かにする」ことを目的に，姿勢保持技術のセミナーや情報発信，機器試乗会，姿勢保持技術者の人材育成・スクールや研修などを中心に様々な活動を行っている。当協会は，任意の団体として活動してきたが，2006 年１月に NPO 法人として認証される予定である。

■ Room：H　13：00～14：00
［体験セミナー］
展示会場を回って機器の目利きになるツアー

中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター），
奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター）

一見同じように見える福祉機器でも実は大きな違いが隠されていることが多い。機器を見るポイントをつかむと機器の見方が違ってきます。

［定員２０名］＊当日の朝，ATAC 受付において予約を受け付けます。ご希望される方は，お早めに受付においで下さい。先着順です。

■ Room：H　14：30～16：45
［体験セミナー］
視覚障害疑似体験

金沢 真理（社団法人 東京都盲人福祉協会）

視覚障害といっても，全く見えない人もいれば，視覚を活用して生活している人もいる。 また，視覚を活用している人も見え方は様々である。さらに，生まれながらという人もいれば，成人してからや高齢によって障害をもった人もいる。その人の見え方や環境によって，困難だと感じることは変わってくる。この体験を通じて，相手が必要とする支援を相手の立場で感じて欲しい。支援技術の選び方や工夫についても一緒に考えていきたい。

［定員３０名］＊当日の朝，ATAC 受付において予約を受け付けます。ご希望される方は，お早めに受付においで下さい。先着順です。

■ Room：Annex1　17：00～17：30
第一回 こころ大賞授賞式

e-AT を使って絵を描く，文章を書く，人とコミュニケーションするなど，自分の夢を実現した人とそのサポータに贈られる賞です。
また，マイクロソフトより，障害者支援の取り組みについての紹介も合わせて行われます。

障害をもった方々に対するマイクロソフトの取り組みについて

緒方 麻弓子
（マイクロソフト株式会社　社会貢献部）

マイクロソフトは「世界中の全ての人々の持つ可能性を最大限に引き出すためのお手伝いをする」という企業ミッションを掲げています。製品開発では、障害者の方やアクセシビリティ製品の開発企業様と協力して、障害者の方にとって使いやすい製品づくりに取り組んでいます。また障害者、女性、在住外国人など、これまで IT を活用する機会が少なかった方々に対しては IT 研修を行い、社会参加や就労の機会拡大などを支援しています。障害を持つ児童・生徒に対しては、教職員の研修やカリキュラム／教材の提供、教職員コミュニティサイトの運営など、教育における情報コミュニケーション技術の利活用の推進を通じた支援を進めています。

■ Room：Annex1　17：30～18：15
掛屋 剛志 君コンサート

掛屋剛志君は 13 歳。第２回ゴールドコンサートでオリジナル曲「むかし」を歌い審査員特別賞を受賞。また，24 時間テレビでは武道館でも熱唱。

コンサート　- 掛屋剛志君自己紹介文
音楽が大好き、拍手をもらうのが大好きです。特にピアノ教室や先生に指導いただいたこともないので自己流です。この曲「むかし」は、オリジナル曲です。詩は、盲学校担任だった小川先生が僕の言葉を書きとめてつないで下さいました。どうぞ聞いてください。

ポスターセッション

12/3　14:00～14:30，12/4　10:45～11:15

展示は，３日，４日の終日行っておりますが，
下記の時間は発表者がブースにてご説明いたします。

3日（土）14：00～14：30

4日（日）10：45～11：15

高度シンボルコミュニケーション・デバイス「T・S」の開発

大杉 成喜（独立行政法人国立特殊教育総合研究所）

シンボルを選択して発声させる VOCA と，入力した文字や文章を発声させる VOCA の中間段階の VOCA を開発した。それには，文章作成入門期の子どもが使用しやすいよう「単語予測機能」と「シンボルかな混じり文提示機能」を搭載した。かなは，学校・家庭場面で使用することを想定した語彙を収録し，シンボルは，使用する子どもと周りの子どものどちらにも理解しやすくするため，マンガ文化を取り入れたものを使用した。ポスター発表と合わせて行う。

Web を利用した盲・聾・養護学校からの情報提供における現状と課題 (2)
–Web サイトのアクセシビリティの現状に関する調査報告–

小野 龍智・渡辺 哲也（独立行政法人国立特殊教育総合研究所）

全国の盲・聾・養護学校 997 校（平成 16 年 6 月のデータに基づく）のうち，調査期間内に Web サイトを確認できた 608 校（盲学校 58 校，聾学校 65 校，養護学校 485 校）を対象に，各校の Web サイトのアクセシビリティの現状と課題について調査を行った。この調査は，富士通株式会社が公開しているアクセシビリティの点検ツールである WebInspector を使用し，各校のトップページにある HTML ファイルについて点検を行っている。

2 画面ユニバーサルデザイン携帯電話試作機の開発

城戸 恵美子（三菱電機 株式会社），沢田 久美子・樋口 博彦，荒井 秀文・
冨森 健史（三菱電機），吉田 岳人（ＮＴＴドコモ），
飯島 浩（横浜市総合リハビリテーションセンター）

３人に２人が携帯電話ユーザと言われる中で，操作の複雑さやメニューの多さなどを理由に，利用したい気持ちはあるものの携帯電話を使わずにいる高齢者や障害者がいる。そこで，携帯電話を初めて使用する高齢者にもわかりやすく使いやすい操作を実現するとともに，上肢に障害があって従来の携帯電話ボタンの押下操作が困難だったユーザにも利用できるように配慮した携帯電話の試作機開発に取り組んだ。本発表では，高齢者を対象としたユーザビリティ評価結果も含めて，試作機のデモを行う。

生活のためのリテラシーを作り上げる IT 支援へ
–宮城 Unlimited Potential プログラムの試み–

柴田 邦臣（大妻女子大学），宍戸幸樹（(特）ビートスイッチ），
徳田律子（東北文化学園大学医療福祉学部）

これまでの障害者向け IT 講習は，受講者のニーズと学習できる IT スキルが一致していないケースが多く，障害当事者が実際にやりたいことを十分サポートできていなかった。NPO 法人ビートスイッチでは，マイクロソフト株式会社とパートナーシップを結び，宮城県の後援を得て，宮城 Unlimited Potential プログラム（宮城 UP）を実施している。そのなかでは，地域生活における実際の利用場面で，障害当事者が IT を使っていく力を身につけられるような支援プログラムを実施しており，本発表ではその内容について報告する。

ビニールチューブを利用したスイッチの試作
–重複障がいのある子ども達の応答する環境作りを目指して–

杉浦 徹

シンプルテクノロジー等で利用するスイッチは子どもの実態に応じて設定するべきであるが，運動障がいと同時に感覚障がいを伴う場合，スイッチを利用することが難しくなると想像できる。本報告は，従来のスイッチの素材を工夫することで，子ども達のより自発的な働きかけを生み出す可能性について検証した。事例を通じて，導入から効果，課題について報告する。

PECS プログラムの実践から学ぶ自発的コミュニケーション行動と支援

松井 恵子（のじぎく養護学校），藤原 秀文（兵庫県小野市立河合小学校），
井上 雅彦（兵庫教育大学）

コミュニケーション手段を獲得していない自閉症児に対して，PECS（Picture Exchange Communication System）プログラムを用いたコミュニケーション指導を行った。その結果，自閉症児は，好みの物と写真（絵・シンボル）カードを交換する要求を示した。さらに，コミュニケーション不全による不適切な行動（奇声・頭打ち等）が軽減された。また，対象児と関わりの深い保護者や教師・保育士は，対象児の要求行動を明確に理解できるようになり，対象児の新しい好みに対する情報収集や日常への関心も強くなった。

触図の作り方・楽しみ方

水野 暁子・水野 昇治（日本福祉大学情報社会科学部），

視覚障害者に提供する図を含む資料，案内図，地図などの触図の作り方と工夫を紹介する。会場では，立体コピーの触図とカプセルペーパーに直接描くことのできる触図ペン（ATAC カンファレンス 2004 で発表）を直接体験することができる。この発表では，視覚障害者に図を理解してもらうためだけでなく，見える人も見えない人も一緒に楽しめる表現の一つとしての触図の工夫も考えていく。

特別な教育的ニーズのある児童生徒のための
マイクロコントローラを活用した教材・教具

棟方 哲弥・小野 龍智・植木田 潤（国立特殊教育総合研究所），
美船 俊介（鳥取県立皆生養護学校），川谷 歩（鳥取県立総合療育センター），
下川 英子（埼玉療育園），大澤 和子（江原音楽療法専門学校）

独立行政法人国立特殊教育総合研究所では，教育現場のニーズに基づいて ICT(Information Communication Technology) 等を活用した支援機器，教材等の開発と評価を進めている。本発表では，筋疾患で移動が困難な小児に対し，電動車いすを必要とする前の段階で効果があると報告された「低床型電動スクータ（棟方ら ,2003)」を改良し，木製チェアーや歩行器などを取り付けられる駆動装置と，わずかな呼気でも演奏することが可能な教具の開発と評価について報告する。

Web を利用した盲・聾・養護学校からの情報提供における現状と課題 (1)
–Web サイトのコンテンツの現状に関する調査報告–

渡邉 章・小野 龍智・中村 均
(独立行政法人国立特殊教育総合研究所）

全国の盲・聾・養護学校の Web サイトについて調査を行った。現在 Web サイトを利用してどのような情報を提供し，提供する上で何を工夫しているのか，今後どのような情報を充実させていく必要があるのかなど，その現状と課題についての調査結果を報告する。調査対象は，全国の盲・聾・養護学校 998 機関に上っている。

4日(日)
＊メインカンファレンス

■ Room：Annex1　8：30～9：30
[e-AT 応用]
携帯電話を利用した生活支援

坂井 聡（香川大学 教育学部 障害児教育講座），
奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター）

携帯電話を使うことで障害のある人の自立した生活が可能になってきている。例えば，携帯電話をコミュニケーションエイドとして利用するなど，障害のある人の自立した生活を支える様々な使い方のアイデアを紹介する。

■ Room：Annex1　9：45～10：45
[障害を理解する]
視覚障害に対する誤解はありませんか？

金沢 真理（社団法人 東京都盲人福祉協会），
小松 聰子，木村 由美，
中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター）

障害について疑問に思いながらそのままにしている事はありませんか？その疑問が，障害に対する偏見を生む一因となっている気もします。ここでは，当事者の人との対談を通して，１つ１つ疑問を解いていきましょう。

★ Room：B1　8：30～11：05
[厚生労働科学研究発表会]
盲ろう者の自立と社会参加を推進するための機器開発・改良支援システムの構築ならびに中間支援者養成プログラムに関する研究」成果報告会

東京大学先端科学技術研究センター　福島研究室

この中で基調講演を一つとワークショップ形式の報告会を一つ実施する予定です。

（1）基調講演
マルチ盲ろう者門川紳一郎が語る「盲ろう者の世界を広げる支援技術の可能性」
門川紳一郎さんは，ヘレン・ケラーや福島智さんと同じく，目も耳も不自由な盲ろう者である。日本手話をはじめ，アメリカ手話，指点字と多様なコミュニケーション手段を使い分けるコミュニケーションの達人でもある。手話による教育で世界的に有名なギャローデット大学でカウンセリングを学び，現在盲ろう者のピア・カウンセラーとして活躍されている。また，支援技術にも明るく，さまざまなテクノロジーを使いこなすと同時に，自らソフトウエアの開発にも携わっておられる。講演会では，ユーザでもあり，技術者でもあり，ピア・サポーターでもある門川さんに，盲ろう者の世界を紹介してもらいつつ，「支援技術はどうあるべきか」について語っていただきたい。盲ろうの世界では，東の福島，西の門川と称されている方なので，楽しく，ぐっとくる話がたくさん伺えると思われる。どうぞご期待ください。

（2）ワークショップ形式報告会
現代のヘレン・ケラーを支える技術
–疑似体験を通して，盲ろう者の支援のあり方を探る–
ヘレン・ケラーを知っているだろうか？彼女は見えない・聞こえないという障害を併せ持つ盲ろう者である。実は日本にも，こうした盲ろう者が現在１３，０００人いると言われている。彼女が現在生きていたとしたら，どのような支援やテクノロジーを使って生活するのだろうか？買い物を楽しみ，恋人と語り合い，ダイエットをするには，どのような方法が考えられるだろうか？現在私たちは，盲ろう者の生活を支援するための機器開発に関する研究をしている。本セッションでは，この研究で明らかになった盲ろう者の生活実態や多様なニーズを，体験的に理解していただきたい。このような体験を通して，盲ろう者の自立と社会参加を推進するために私たちが開発した支援機器及び全国の盲ろう者の実態調査の結果を紹介する。

■ Room：B2　8：30～9：30
[障害のある子どもを大学へ]
英国の障害学生支援の実態

EA Draffan（マンチェスター大学），
中邑 賢龍（東京大学），巖淵 守（広島大学）

イギリスやアメリカなどの欧米の国々では，学生全体の５％以上が障害のある学生である大学が少なくありません。大きな大学では，数百人という規模で障害のある学生が在籍し，その半数近くは学習障害を持つ子どもたちです。今後，日本においても大学に進学する障害のある子どもたちの増加が強く望まれます。ここでは，障害のある学生に対する受け入れ・支援の進むイギリス・サセックス大学の Draffan 氏を招き，欧米の現状についての最新情報を紹介します。そうした大学では，障害のある大学生が，様々な場面において情報技術・支援技術を活用し，学習の自立を図っています。イギリスでは，アセスメントセンターと呼ばれる機関が全国に５１箇所設置され，支援機器に関する評価，導入，トレーニングも行われていることがその背景にあります。テクノロジーが障害のある子どもたちの学びに果たす役割について考え，彼らの進学を成功へと導く秘訣を探りたいと思います。

■ Room：B2　9：45～10：45
[障害のある子どもを大学へ]
日本および米国の障害学生の実態

巖淵 守（広島大学大学院教育学研究科），
渡辺 崇史（日本福祉大学 福祉テクノロジーセンター），田中 芳則（広島大学障害学生支援のためのボランティア活動室）

障害のある学生の受け入れと入学後の彼らへの支援を学校全体の重要事項として取り組む大学が国内にも現れている。それら先駆的な取り組みをしている大学における支援は，今どこまで進んでいるのだろうか？受験や就学への配慮，支援技術の活用，継続的な活動に必要な支援者の確保と育成などについて，変わり始めた日本の大学における実例を紹介する。

■ Room：C1　8：30～9：30
[e-AT 上級]
姿勢保持とスイッチ・機器のフィッティング

田中 栄一（独立行政法人 国立病院機構八雲病院）

道具の利用は，障害を持つ子供の能力を十分に引き出すために使われるが，時には，道具の使用方法（ルール）に制約され，その子供がもつ可能性を発見できないままでいることがある。ここでは，人の持つ柔軟さをキーワードに，姿勢と運動，支援機器の適合に必要な視点を考えていく。

■ Room：C1　9：45～10：45
[e-AT 基礎]
介護のための小さなハイテク

奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター）

病気や障害により介護を受けている人の生活もハイテク製品を利用することで便利にできるが，介護関係者にそういった機器が十分知られているとは言いがたい。ここでは簡単に利用できる製品を実際に手に取ってもらい理解を深める。

■ Room：C2　8：30～10：45

金森 克浩　プロデュース

本セッションは「特別支援教育」をテーマとして教育現場で活かされる AT／AAC について「肢体不自由児」「知的障害児」「重度重複障害児」「発達障害児」というさまざまな障害の子どもたちへのアプローチを実践的に紹介する事とした。発表者は，それぞれの障害は違っていても「コミュニケーション」という１つのつながった課題をテーマに子どもたちの自立を考えている。このセッションが，新しい教育活動に結びついていけば幸いである。

8：30～9：30
[AAC 実践・特別支援教育]
肢体不自由の子どもへの AT／AAC 適用
金森 克浩（東京都立光明養護学校），
大前 洋介（神戸市立友生養護学校）
肢体不自由児への AT や AAC の適用は必要性が分かり易いため早い時期から多くの実践がされてきた。しかし，それらの実践は一部の教員の「経験」に基づいた「職人技」的な活用方法が多く，「あの先生だからやってもらえる」という言葉や「担当者が変わると引き継がれない」などの問題があった。そこで，本セッションでは，AAC や AT 機器の適用についての教育課程上の取り扱い，校内での支援方法の整備や，特別支援教育コーディネーターと AT コーディネーター（仮称）の役割などを提案する。

9：45～10：45
［AAC 実践・特別支援教育］
知的障害のある子どもへの AT ／ AAC 適用
河野 俊寛（金沢大学教育学部附属養護学校），
原 宏和（滋賀県立八日市養護学校）
知的障害教育でも，AAC(補助･代替コミュニケーション，あるいは，拡大･代替コミュニケーション) や AT（支援技術）を活用した実践が多くされてきている。ここでは，知的障害養護学校での，ローテクからハイテクまでの AAC や AT を活用した支援事例を映像を交えながら紹介すると同時に，一人一人に合った「道具」を用意するための観点と，「道具」を子どもが使うようになるためのプロセスについて解説する。

● Room：F　8：30～9：30
言語の表出に障害を持つ人や キーボード入力が苦手な人のための メールソフト「そらメール」
廣冨 哲也（SORA 有限会社，
島根大学総合理工学部）

「そらメール」は，島根大学と会津大学の研究成果をもとに開発された，言語の表出に障害を持つ人やキーボード入力が苦手な人を対象としたメールソフトです。だれが・いつ・どこで・何をしている・なぜ・どのようにの質問に対し，独自の予測手法により，答えの候補として画像付きの単語を提示し，使用者がそれらを選択することで文を作成します。操作には障害に応じた機器を使用でき，また，語順・助詞・時制などはソフトが自動的に変換しますので，タイプミスや文法ミスのない文を容易に作成することが可能です。作成した文は，携帯やパソコンにメールで送ったり，印刷したりすることができます。本セミナーでは，製品の特徴，使用法などを紹介します。

● Room：F　9：45～10：45
発達障害児（者）向けモバイル コミュニケーションシステムについて
天白 成一（株式会社アルカディア），
中林 稔尭（神戸大学発達科学部）

発達障害児（者）および，その支援者の為の機器として様々な VOCA（Voice Output Communication Aids）が市販されていますが，外国製品が多く日本の習慣や実情に合わない，障害の程度が様々なので適用が難しい，障害者が興味を持ってなかなか使ってくれない等の問題があります。
そこで，これらの課題を解決するために，インターフェース画面のカスタマイズ機能を有し，静止画及び動画を有効に利用した，安価で実用的なモバイルコミュニケーションシステムの研究開発を神戸大学発達科学部の中林研究室と連携し実施してきました。
携帯電話や PDA に代表される携帯情報端末を使用し，カスタマイズが可能な発達障害児（者）の利用を誘発する AAC 機器について発表と紹介をします。

● Room：G　8：30～9：30
「わからない」を「わかる」ようにする PCS シンボル，ボードメーカーの紹介と活用事例
田代 洋章（株式会社 アクセスインターナショナル）

ボードメーカーは，コミュニケーションシートの作成を支援するソフトウェアです。
今まで，絵を書いたり，写真を切り抜いてコミュニケーションシートやカードを作成しても，それが破損してしまったり，追加したい事柄が増えても，作り直す事が面倒だと思ったことはありませんか？
そんな時，ボードメーカーはあなたの強力な助っ人として大活躍！
約 4000 個もある PCS シンボル辞書から必要なシンボルを簡単検索！
それを好きな位置に配置して印刷！
しかもデジカメの写真も登録できるので，どんどんあなただけのシート作成に活用できます。日常生活や学校生活で活用されている事例を中心に紹介いたします。

● Room：G　9：45～10：45
VOCA ってどう使うの？ ～さまざまな VOCA の活用について～
松井 由起子（パシフィックサプライ株式会社）

VOCA が学校や生活で活用される機会が増えてきています。「でももっと違った活用ができるのでは・・？」「他の人はどんな使い方をしているんだろう？」という声をよくお聞きします。VOCA はとてもシンプルなエイドです。録音する言葉や活用の方法で，子ども達の活動や経験をさらに広げる大きな可能性を持っています。さらに VOCA の活用の幅を広げていただくため，様々な VOCA の実際の活用場面のご紹介をさせていただきます。
（12 月 3 日（日）の 15:45 ～ 16:45 （会場 B2）と同じ内容です）

★ Room：Annex1　11：15～12：15
［海外招待講演］通訳有
より簡単な支援技術へ
Moving towards more simple Assistive Technology systems
Paul Blenkhorn（マンチェスター大学），

支援技術は使いやすいものでなければならないが，年々，その機能は複雑になってきている。このままでいいのか？ここでは，今後向かうべき方向を論じてみる。

※厚生労働科学研究発表会として行われるもので，一般の方々にも公開されています。

■ Room：B1・B2・C1・C2・F・G
12：15～13：00
教師・IT サポータ・OT・福祉施設職員・病院・看護介護関係者・家族のネットワーク

昼食を各自持ち寄り，コーディネータの話題提起の中で話しあう自由なセッションです。入退室は自由です。気楽におしゃべりしてネットワークを広げる時間としてご利用下さい。

■ Room：Annex1　13：00～13：50
［AAC 実践・特別支援教育］
PECS によるコミュニケーション指導 –その効果と可能性
藤野 博（東京学芸大学　総合教育科学系特別支援科学講座）

自閉症のコミュニケーションには，視覚的認知を活用し，絵や写真を使用することが効果的と考えられている。一方，絵などを媒介手段として相手に伝えることは共同注意に困難をもつ自閉症児には簡単には行かない面もある。自閉症の子どもの指導では絵カードを渡して望む物を受け取るという物々交換方式がわかりやすい。具体的方法として PECS と呼ばれる指導システムが注目されている。PECS は効果的に相手に意思を伝えるスキルの獲得だけでなく，音声言語の促進や問題行動の軽減にもつながることが報告されている。ここでは PECS の効果と可能性について考える。

■ Room：Annex1　14：00～14：50
［AAC 基礎・特別支援教育］
コミュニケーションシンボルとは？
藤澤 和子（京都府立向日が丘養護学校），
中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター）

コミュニケーション手段として使用する研究の発展の歴史，他の視覚支援の手段である写真，絵との違いやシンボルの長所と短所などを説明する中で，シンボルがコミュニケーション手段として有効である点や課題となるところに迫りたいと考える。特に PCS と PIC シンボルについての特徴や新しい企画，それを効果的に活かすための出版物や CD などを紹介する。

■ Room：Annex1　15：00～15：50
［AAC 実践・特別支援教育］
コミュニケーションシンボルの使い方
藤澤 和子（京都府立向日が丘養護学校），
中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター）

教育・福祉現場で具体的にシンボルを使用する方法と効果，課題について，主に実践例や教材を通して報告する，自閉症児・者への絵カード交換式コミュニケーション方法の中での使い方，知的障害児への遠隔コミュニケーションツールとしての使い方，VOCA などの機器と合わせた使い方，シンボルを使った本の作り方，講演内容などをシンボルで要約する試みなどを紹介し，

シンボルを使ってコミュニケーションを拡げ，わかりやすく情報を得るための効果的なヒントと参考例を提供する，

★ Room : B1　13 : 00 ～ 13 : 50
［厚生労働科学研究発表会］
情報共有で障害のある人とのコミュニケーションを変える

中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター）

これまで障害のある人のとのコミュニケーションには，補聴器などによる情報入力の確保，あるいは，音声代替装置による出力の確保が重視されてきた。しかし，それだけではなかなかコミュニケーションが成立しないことがある。その背景にはコミュニケーションのとり方や話題などの情報の欠如が考えられる。ここでは，重度障害のある人の情報発信を保障する意義と方法を論じる。

★ Room : B1　14 : 00 ～ 14 : 50
［厚生労働科学研究発表会］
情報共有を保障する道具・サポートブック

丸岡 玲子，
坂井 聡（香川大学 教育学部 障害児教育講座）

サポートブックは，サポートの時に支援者に障害者本人の特性・コミュニケーションの取り方・さまざまな場面での対処法などをわかりやすく伝えるための情報ブックである。支援を受けながら社会で暮らしいくために，サポートブックはどうあるべきかを論じる。

★ Room : B1　15 : 00 ～ 15 : 50
［厚生労働科学研究発表会］
ハイテクを利用した情報共有・e-PP システム

巖淵 守（広島大学大学院教育学研究科）

支援者が障がいのある人に会う前に，支援方法や相手についての情報を共有できれば，より安心のできる快適な支援環境がつくられるはずである。障がいのある人が，家族や支援者の協力を得ながら自らの支援情報やコミュニケーションに役立つプロフィールを発信し，それを他の支援者が携帯電話を用いて容易に引き出すことのできるシステムを紹介する。

■ Room : B2　13 : 00 ～ 13 : 50
［e-AT 上級］
最新の支援技術製品・制度等の動向 REHACARE と CTG 報告

巖淵 守（広島大学大学院教育学研究科）

2005 年 10 月に開催された最大規模の福祉機器展示会 REHACARE インターナショナルおよび CTG（Closing the Gap）カンファレンス出展された欧米の最新の支援技術製品について報告する。

■ Room : C1　13 : 00 ～ 13 : 50
［e-AT 基礎・特別支援教育］
ロービジョンと生活支援技術

小松 聰子

病気や事故などで視覚障害となり，見えてはいるけれども生活に支障をきたす状態をロービジョン（弱視）という。生活するなかで様々な不便さが生じるが，福祉機器や便利グッズといわれている市販品を使うこと，ちょっと工夫をすること，周囲の人の配慮などで低減することができる。ここでは，そのための機器や道具の紹介，工夫や配慮などについてロービジョン当事者の立場から伝える。

■ Room : C1　14 : 00 ～ 14 : 50
［e-AT 基礎・特別支援教育］
全盲と生活支援技術

金沢 真理（社団法人 東京都盲人福祉協会）

視覚障害のある人の生活が快適になるためにはハイテクからローテクまで様々な手段を駆使していくことが重要である。ここでは，視覚障害のある人の生活支援技術について考える。この視覚を活用しなくても使える生活支援は高齢者をはじめ多くの人たちにも役に立つはずである。

○ Room : C1　15 : 00 ～ 15 : 50
視覚障害のある人の情報支援

遠隔からの支援と音声地図を併用した視覚障害者のための歩行支援

松本 三千人・家永 貴史・柴田 雅博
（財団法人 九州システム情報技術研究所），
豊田 信之・木村 陽子・後藤 拓志・安河内 尊士
（福岡市立心身障害福祉センター）

視覚障害者が，初めての場所でも一人で自由に歩行するための支援システムについて，実験を通じてその有効性を検証した。このシステムでは，視覚障害者が単独歩行する際に必要となる手がかりや，目的地までの道順などを音声で表現したオーディトリーマップ（音声地図）と，カメラ付携帯型端末から送られてくる映像を遠隔地で共有しながら視覚障害者の歩行を支援する。

弱視者の e-AT　–インターネット，OCR などによる情報支援–

高市 瑞穂（四国アクセシビリティセンター）

弱視者の見え方は個体差が大きい上に，画面に表示される文字の色や面積によって見え方が異なるため，パソコンの設定が一度で完了することはない。またパソコンが変わると画面の輝度調整も必要になるが，それらの変更を全部覚えて，自分で操作するのは困難を極める。弱視者へのパソコン支援を行っていると，弱視者にとってインターネットがいかに便利で有意義かがわかるが，OS の設定の難しさや Web アクセシビリティに配慮がなされていないためにまだまだ利用が促進できない。ここでは，OS のユーザー設定や OCR などの支援機器を用いて支援している内容を報告する。

障害者のブログ

高市 瑞穂（四国アクセシビリティセンター）

ブログの流行は著しく，それに興味を持つ障害者も増えている。しかし友人のブログに「書き込み」をしたが送れなかったり，カレンダーが使えなかったりと，実際の使用には困難のようである。またプライバシー保護や著作権についての啓蒙がなされておらず，障害者がブログを通じて情報発信するには，まだ問題が山積しているように思える。しかしブログによって，社会との接点を求める障害者も少なくない。直面する課題について報告し，障害者にとって使いやすいブログと支援方法について考える。

■ Room : C2　13 : 00 ～ 14 : 50

金森 克浩　プロデュース

本セッションは「特別支援教育」をテーマとして教育現場で活かされる AT ／ AAC について「肢体不自由児」「知的障害児」「重度重複障害児」「発達障害児」というさまざまな障害の子どもたちへのアプローチを実践的に紹介する事とした。発表者は，それぞれの障害は違っていても「コミュニケーション」という 1 つのつながった課題をテーマに子どもたちの自立を考えている。このセッションが，新しい教育活動に結びついていけば幸いである。

13 : 00 ～ 13 : 50
［AAC 実践・特別支援教育］
重度重複障害とおもちゃ

小松 敬典（東京都立光明養護学校），
外山 世志之（東京都立府中養護学校），
禿 嘉人（東京都立城南養護学校）

重度児は意思表出が定かでないために，意思がないと思われがちである。しかし，子どもの興味にあった玩具が，知覚しやすく理解できるように用意され，しかもその玩具と応答できる条件が満たされていれば，子どもの意識は明確になり，環境と応答する能力，つまりコミュニケーションの力が育ってくる。ここでは，重度の子どもが遊べるようになる玩具や環境の工夫から，玩具と応答するためのスイッチや機器，環境の工夫を提案する。

14 : 00 ～ 14 : 50
［AAC 実践・特別支援教育］
発達障害のある子どもへの AT ／ AAC 適用

西谷 淳（滋賀県湖南市教育委員会），
太田 容次（滋賀大教育学部附属養護学校）

発達障害者支援法は，PDD，LD，ADHD 等の子どもに対応するために多くの機関が連携しつつ教育や生活の支援を実施することを求めている。ここでは，養護学校に在籍する発達障害のある生徒の事例をもとに，ネットワークを活用した実践を紹介し，その有用性について概説する。また，軽度発達障害 (LD，ADHD，高機能自閉，アスペルガー) の子どもたちの読み書きの困難さを軽減するための現在のソフトウェアの状況についても話題を提起する。

■ Room：C2　15：00～15：50
［e-AT 基礎］

高齢者と玩具

小林 るつ子（玩具福祉学会）

『玩具』は急速な進歩をしている。子どものためだけでなく、高齢者のレクレーションの道具としても注目を集めている。ここでは高齢者への玩具の利用の理論と実践を紹介する。

○ Room：F　13：00～13：50
コミュニケーションの環境作り

語彙の増大を促す環境作り

森岡 典子（東京都立村山養護学校），
道浦 佳代子（東京都立村山養護学校）

AAC を活用するとき，表現手段を考えがちだが，理解語彙の増大を含めて広く社会に視野を開くことなどの全体的な発達が欠かせない。本事例では，発語のない教科前の子どもたちが，校内外の職業を取材して報告するという過程で，理解語彙の増大に関わるハンディに，写真やビデオをタイムリーに活用してアプローチしている。

新しい生活に見通しをもってもらうための援助工夫と課題　～生活に密着したシンボル活用の報告として～

安田 順子（重症心身障害児施設 第二びわこ学園），
貫井 梨英・武居 智子・井料 隆仁・磯 春樹・
石井 由紀子・佐藤 八郎
（第二びわこ学園２住棟シンボル係会）

第二びわこ学園は昨年移転し，新しい生活がスタートした。今回，その中でも新しい環境という変化に対しての適応に弱く，そういったことが原因となって生活基盤が揺らいでしまうグループに焦点をあて，言葉だけでなくシンボルをより生活に密着させることによって，見通しを持ち主体的な安定した生活を送ってもらえるようサポートしてきた経緯を報告したい。

○ Room：F　14：00～15：00
様々なコミュニケーションの取り組み

ＰＥＣＳ獲得後の生活への応用

津田 要（京都市醍醐和光寮）

言葉でのコミュニケーションが難しい K さん（26 歳男性，重度 MR，自閉症）に対し，PECS というコミュニケーション手段を用いた実践を報告する。K さんが，PECS を獲得することにより生活がどのように変化したか，事例を交え詳しく紹介する。

視線コミュニケーションにおける注視点の判別に関する実証研究

江田 裕介（和歌山大学 教育学部）

透明シート等の補助具を介して，支援者が重度障害者と視線コミュニケーションを行うとき，相手の視線がシートのどの座標に向けられているかを正確に判別する必要がある。このとき，判別の効率に影響する要因として，提示する視線ターゲットの数や画面の分割数などがある。また，支援者の提示方法や読み取り方も結果に影響すると考えられる。本研究では，主として支援者側の方略について，視線コミュニケーションにおける応答成立の要件を検証する。約 200 名の健常者に対する視線判別実験の結果を通じて，視線を用いたコミュニケーション・ボードの利用について効果的な工夫を検討する。

PCS 道～免許皆伝への道～
-PCS 四方山話とオリジナル PCS 自慢 -

本田 祐介（長野県飯田養護学校）

PCS を愛する者の道，それが「PCS 道」。PCS に対する知識，技術，思いを持って，PCS が広く世界で使用されている理由や，落とし穴を検証していく。また，本家 PCS にないシンボル（オリジナル PCS）を紹介する。オリジナル PCS には，お風呂や炊飯器の内釜など日米の文化の違いによるもの，電子体温計やデジカメなどテクノロジーの進歩に伴うもの，日本ならではのスラングなどが含まれている。PCS のポピュラーな顔の頭にある線。この線はくぼみなのか髪の毛なのか？ ATAC 当日その真実も報告する。

○ Room：G　13：00～13：50
新しい技術の教育や福祉への活用

言語発達に障害のある人のコミュニケーションを促進する支援機器の開発

中林 稔尭（神戸大学 発達科学部）

言語発達に障害のある知的障害の人たち，自閉性障害の人たち，及び，発達性失語症の症状がある人たちを対象にコミュニケーションや言葉の習得を促進指導するため，また家庭生活，学校生活，そして地域生活など日常生活を送るための支援機器として PDA を活用した試作品を作成した。ここでは，その機能と可能性について紹介したい。さらに，利用者や家族がより簡便に安価に使用できるように，市販のメッセージカードを改良し，簡易版カード型 VOCA の試作品も作成した。

音声認識ソフトの利用可能性
～発話困難者の音声収集ソフトについて～

李 昭洋（特定非営利活動法人 ヤンヤンのおうち），
中林 稔尭（神戸大学発達科学部），
李義 昭（特定非営利活動法人 ヤンヤンのおうち）

音声認識技術の進歩は目覚しく，多くの分野で利用されつつある。しかし，発話に困難のある人々にとって，その認識率はまだまだ低く利用できない技術となっている。私たちは，特定の発話困難者の専用音声モデルを作成することによって，僅か 10 単語であるが，その認識率の向上に成功している。課題はどれだけ多くの音声を収集するかにある。特別な知識なしに音声を収集するためのソフトを紹介したい。また，その音声収集に興味のある協力者を募集している。

○ Room：G　14：00～14：50
子どもに応じた楽しい機器とは？

一人一人に応じた，より使いやすい入力スイッチと機器類の開発及びその活用

栗林 孝雄（京都市立呉竹総合養護学校）

京都市立呉竹総合養護学校では，AAC や IT の積極的導入を図り，子どもの状況に応じて様々な入力スイッチの開発・製作を行ってきた。取り組みの条件は，「使いやすい」，「丈夫」，「安価」，「メインテナンスが容易」であること。今回は，その開発と効果的な活用について，事例を挙げながら報告する。子どもたちが「自ら入力し，操作して進めていく」ことが学習意欲の向上，充実感や達成感の獲得につながり，積極的で能動的な行動を増加させている。

障害児のためのタッチパネルを使用した療育ソフト開発

川口 吾妻（女子美術大学 メディアアート学科），
坂本 清美（杉並区立こども発達センター心理），
福山 春夫（(株) キャドセンター　プロダクツ事業部ビジュアルコミュニケーションチーム）

女子美術大学と杉並区立こども発達センター，株式会社キャドセンターでは，発達に障害を持つ就学前の子どもに対する療育用機器およびコンテンツ開発を行っている。今回は，メディアアートを志向する学生たちが，自由な発想と豊かな表現力で作成した Flash コンテンツを紹介し，その開発の経緯と考え方を紹介する。

■ Room：G　15：00～15：50
［e-AT 実践］

もの・道具，環境でできること

増澤 高志（生活工房）

障害のある人の生活を道具が便利にしています。しかし，道具が単に存在するだけでは必ずしも便利とは言えません。見やすい画面の位置を確保するにはどうするのか，スイッチを確実にできるだけ負担が少なく操作するためにはどうするのか等が必要です。ここでは，いくつかの事例を紹介しながら，生活全体をつなげていくための，ものや道具，そして環境づくりを紹介します。

機器・書籍展示

機器展示は「アネックス２（展示会場）」にて，以下の時間にご覧いただけます。

３日（土）　10：00～16：45
４日（日）　 8：30～15：00

出展企業／団体一覧

株式会社 アクセスインターナショナル　/　株式会社 アシスト　/
株式会社 アルカディア　/　IntelliTools, Inc.　/　有限会社 エーティーマーケット　/
株式会社 エヌ・ディ・エス　/　有限会社 エムクリエイト　/
企業組合 カトレア・サービス　/　玩具福祉学会　/　Claro Software　/
五大エンボディ株式会社　/　サンタ　/　株式会社 シグミックス　/
株式会社 城南電器工業所　/　有限会社 ストラトゲイト　/　生活工房　/
株式会社 世界日報社　/　財団法人 全日本情報学習振興協会　/　ＳＯＲＡ有限会社　/
DAEDALUS TECHNOLOGIES, INC.　/　ダブル技研株式会社　/
株式会社 テクノスジャパン　/　テクノツール株式会社　/
東京大学先端科学技術研究センター　/　株式会社 ナムコ　/　日本電気株式会社　/
パシフィックサプライ株式会社　/　株式会社 日立製作所 /　ファンコム株式会社　/
株式会社 フェロー　/　福祉支援サービス　コミル　/　富士通株式会社　/
プレイケアセンター　/　マイクロソフト株式会社　/　マジカルトイボックス　/
明電ソフトウエア株式会社　/　Mayer-Jonhnson LLC　/
株式会社 ユーキ・トレーディング　/　レインボープロジェクト

カタログ出展

有限会社 アルファテック　/　有限会社 ウエルテック　/　川端鉄工所　/
有限会社 しまだ福祉用具研　/「できマウス。」プロジェクト　/
株式会社 西澤電機計器製作所　/　有限会社 ルピナス

書籍販売

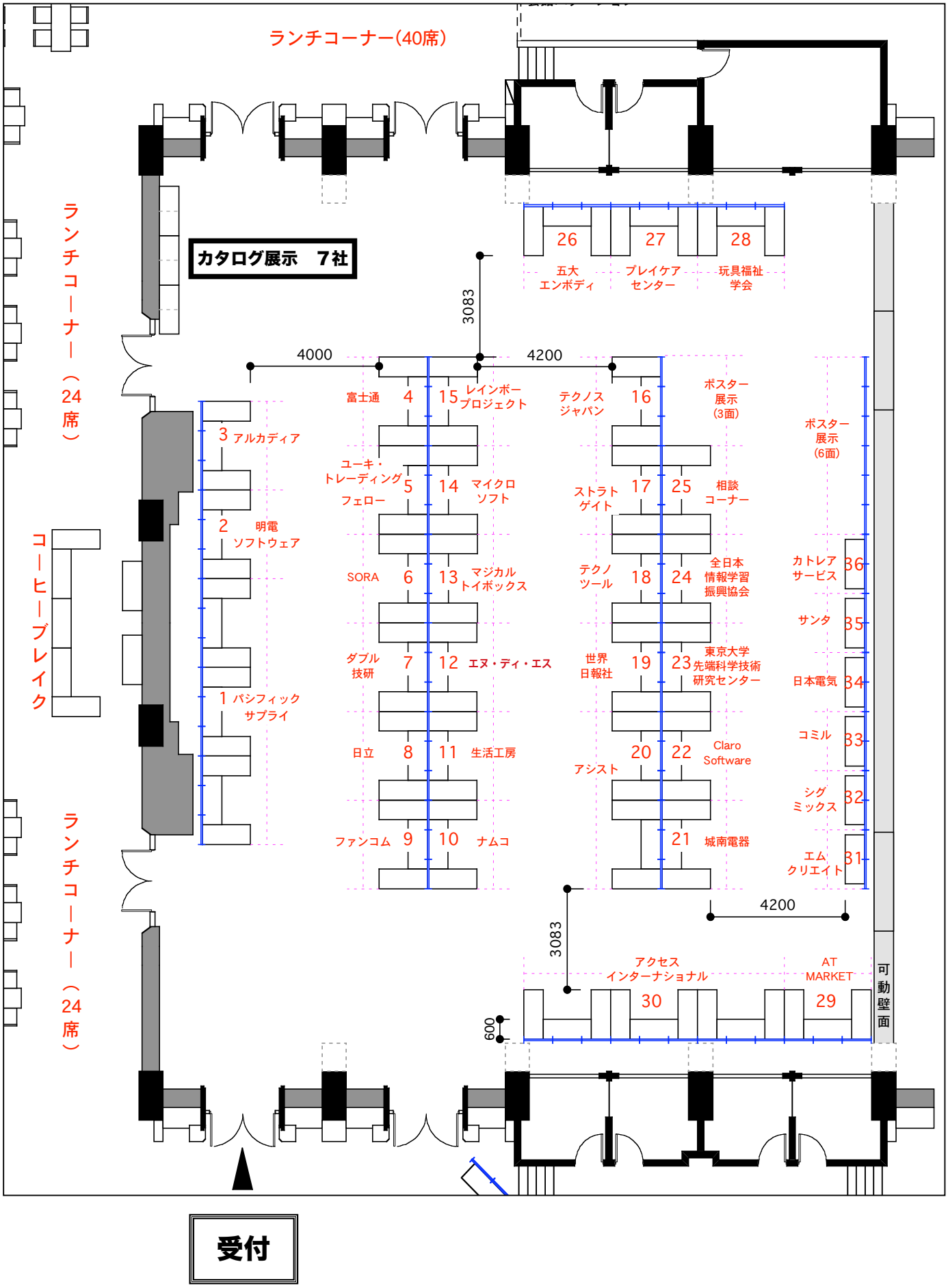
有限会社 スペース 96　/　こころリソースブック出版会

相談会

「アネックス２（展示会場）」にて，以下の時間に行われています。
詳細につきましては，当日，会場にてご確認下さい。

３日（土）　13：00～15：00（予定）
４日（日）　 10：00～15：00（予定）

展示ブース


ランチコーナー(40席)
ランチコーナー（24席）
コーヒーブレイク
ランチコーナー（24席）
カタログ展示　7社
3083
4000
4200
26
27
28
五大エンボディ
プレイケアセンター
玩具福祉学会
3 アルカディア
2 明電ソフトウェア
1 パシフィックサプライ
富士通 4
15 レインボープロジェクト
ユーキ・トレーディング
フェロー 5
14 マイクロソフト
SORA 6
13 マジカルトイボックス
ダブル技研 7
12 エヌ・ディ・エス
日立 8
11 生活工房
ファンコム 9
10 ナムコ
テクノスジャパン 16
ポスター展示(3面)
ストラトゲイト 17
25 相談コーナー
テクノツール 18
24 全日本情報学習振興協会
世界日報社 19
23 東京大学先端科学技術研究センター
アシスト 20
22 Claro Software
21 城南電器
ポスター展示(6面)
カトレアサービス 36
サンタ 35
日本電気 34
コミル 33
シグミックス 32
エムクリエイト 31
4200
3083
アクセスインターナショナル
AT MARKET
30
29
600
可動壁面
受付

メイアージョンソン

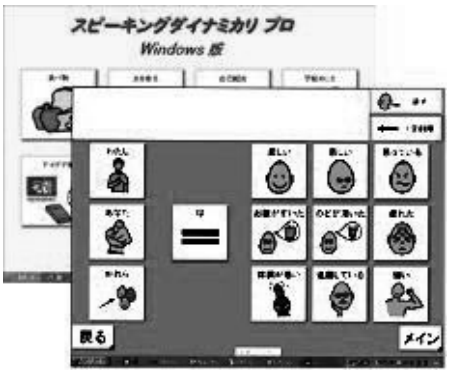
シンボルを使ってコミュニケーション !!

パソコン版 VOCA

ボードメーカーｗｉｔｈスピーキングダイナミカリープロ !

□パソコンを使ってお話ししよう !
収録された約 4000 個のシンボルを使ってレイアウトした各ボタンに音声を録音したり、合成音声を使って音声を出力します。

□障害にあわせた入力
マウスや、タッチパネルからの操作はもちろん、スイッチスキャン入力にも対応しています。



□話題をどんどんひろげよう。
複数のコミュニケーションシートをリンクさせて、話題をどんどんひろげることができます。約 4000 個の PCS シンボルはもちろん、デジタルカメラでとった写真や、デジタルビデオでとった動画 (AVI 形式) をレイアウトすることができます。

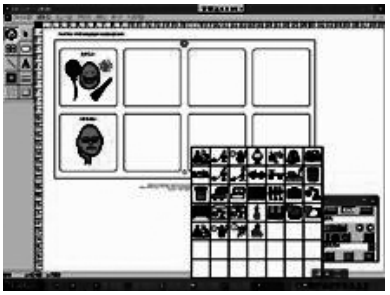
ボードメーカーｗｉｔｈスピーキングダイナミカリープロＷｉｎｄｏｗｓ版
対応 OS:Windows 98,Me,2000,XP RAM :128MB 以上、
HDD:60MB 以上の空き容量

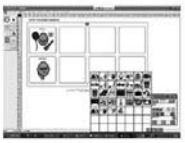
コミュニケーションシート作成ソフト

ボードメーカー Ver5 !

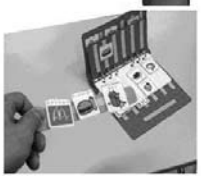
□シンボルコミュニケーション開始
日常生活にまつわる約 4000 個のシンボルはもちろん、デジタルカメラでとった画像をパソコン上でレイアウトしてコミュニケーションシートをつくる。

□カラーと白黒のシンボル
ボードメーカーは、カラーのシンボルだけでなく白黒のシンボルも収録しています。白黒のシンボルの方が理解しやすい方へもご利用いただけます。





□たとえばこんなケース
・文字の理解は難しいけど、絵や写真を使ったコミュニケーションならできるかも。
・絵カードを使って行動の目安を立てたい。
・もっとたくさんのコミュニケーションシートをつくれないかな？そんな時、ボードメーカーは大活躍。



ボードメーカーＶｅｒ５Ｗｉｎｄｏｗｓ版
対応 OS:Windows 98,Me,2000,XP RAM :64MB 以上、
HDD:60MB 以上の空き容量

アクセスインターナショナル

コミュニケーションエイドをコーディネート !!

チェック ! タッチパネルで直感的な操作体験

□ タッチパネル＋ スピーキングダイナミカリ

注目の新製品 !!

□ ジョーズ 2　　クチで操作できるマウス

□ イージートラックス　　このトラックボール安い !

お問い合わせ電話番号 : 株式会社アクセスインターナショナル
東京オフィス 03-5248-1151, 大阪オフィス 072-223-1152

ACCESS international

ブース No. : 30

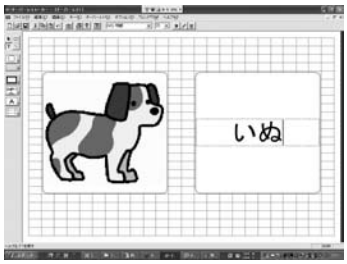
インテリツール

レイアウトも入力設定も簡単自由自在なインテリキーを使ってパソコン操作 !!

□すぐに使える
ひらがなやローマ字、マウス操作など本体に差し込むだけですぐに使えるオーバーレイ（キーボードシート）が 7 種類標準添付。低学年の生徒さんでもひらがなキーボードで簡単パソコン操作。

□障害にあわせて簡単調節
間違ったきーを押しやすい、1 つの指で操作したいといった場合に、入力設定用のオーバーレイを差し込むだけで簡単に生徒さんに合わせた調節ができます。

□充実したキーガード
全 12 種類のキーガードがラインアップ。操作性と視認性の向上により、多くの生徒さんのパソコン操作を更に強力にバックアップします。



□オリジナルのキーボードをつくる。
添付ソフトのオーバーレイメーカーを使って生徒さんの能力にあわせたキーボードをつくることができます。音楽ソフトやプレゼンテーションソフトと組み合わせて使えば、更に楽しく授業開始！

インテリキー USB/ オーバーレイメーカーバンドル
商品寸法幅 437mm ×奥 259mm ×高 30 ㎜動作環境 Windows XP、USB ポート、CD ドライブ、オーバーレイシートサイズ幅 216mm × 356mm（リーガル用紙）

チェック ! 大人気ソフトと一緒に使うインテリキー
□ ぽんぽんらんど+インテリキー
□ キッズタッチシリーズ+インテリキー

アクセスコミュニケーションエイドサポートサイト

アウトレット、キャンペーン、サポート情報などなどお役立ち情報モリモリ！

http://www.accessint.net/

ACCESS international

株式会社アシスト

〒586-0071
大阪府河内長野市加賀2649
TEL : 0721-60-2833
FAX : 0721-60-2834

Assist

自然の質感
椅子の生まれは飛騨高山。

調節機能
盛りだくさんの調節機能

カラーバリエーション 4色の中から選べます

JOY

スマートなフレームモダンデザイン

本体価格

S	M	L
39,800円	47,800円	59,800円

オプション価格 姿勢を楽にサポートします

内転パット	骨盤パット	胸/腰ベルト	カットアウトテーブル
4,900円	5,900円	1,800円	9,800円

主な仕様

	S	M	L	備考
座幅	290mm	340mm	390mm	
座高	230~270mm	280~320mm	340~420mm	3段階
座の奥行	230~290mm	280~380mm	370~450mm	4段階
肘置き高	295~435mm	400~580mm	520~695mm	床面より
重量	5.0kg	6.2kg	8.2kg	

（SML共通）

背角度	90°~105°（無段階）
座面角度	水平から前後約8°
骨盤パット（オプション）	着脱型・左右別装着可
内転パット（オプション）	着脱型
テーブル 寸法/重量	450×600mm/1.5kg

「生活を豊かにする」障害児・者支援福祉協会
〒586-0071 大阪府河内長野市加賀田 2649
TEL: 0721-65-6942 FAX: 0721-65-6962
e-mail : info@popnclub.jp

pop'nCLUB
positioning power network

NPO『生活を豊かにする』障害児・者支援福祉協会
通称名を**「ポップンクラブ」**と言います。

「楽しむこと」には

遊ぶ、学ぶ、動く、伝える、食べる、見る、
聞く、出かける、が盛りだくさんに詰まっています。
もっと生活を楽しもう、もっと生活を豊かにしようと
いうのがポップンクラブなんです。

■ ■ ■ 主な活動内容 ■ ■ ■

活動1．ホームページからの情報発信
活動2．年4回の「ポップンハウス」季刊誌発行
活動3．むっちゃ楽しいかも機器試乗会の企画・運営
活動4．会員との“生活を豊かにする”道具達の開発
活動5．地域密着の姿勢保持勉強会の企画・運営
活動6．バランスシーティング姿勢保持セミナー開催
活動7．その他、生活を豊にする“楽しいこと”すべて

■生活を豊かにする姿勢保持勉強会

各地でユーザーや専門職の方々と勉強会を行っています。
- ウレタンカッティング講習
- シミュレーション体験
- ケース討議
- バギー乗り比べ など

■生活を豊かにする道具達の開発

「物」という道具を、子供達が本来持っている力を引き出すためにユーザーやお母さん、専門職の方々と一緒に開発していきます。

株式会社 アルカディア

担当者名：山本 幸二
〒 562-0003 大阪府箕面市西小路 3 丁目 1 番 15 号
Tel：072-724-0933，Fax：072-724-0455
E-mail：yamamoto@arcadia.co.jp
http://www.arcadia.co.jp/

当社は創業以来、音声合成などの音声要素技術の研究開発に特化したベンチャー企業として、AAC 機器では、主に喉頭摘出などの後天的な原因による発声・発語障害者向けの VOCA（自社ブランド名–ボイスエイド）を開発し、現在多くの自治体を通じてご利用頂いております。今回は、そうした取り組みを更に前進させ、神戸大学発達科学部中林研究室と研究開発したモバイルコミュニケーションシステムの数々を展示いたします。生活支援のための手順 (構造化) 理解、遊びと学びによる言葉の学習、時間の概念獲得など、是非一度手にして見て下さい。

ブース No. : 3

株式会社 エヌ・ディ・エス　営業部

〒 341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎 4-51
Tel：048-956-0730，Fax：048-956-8885
http://www.nds-jpn.com
E-mail：sales@nds-jpn.com

① マジックタッチ

ノートパソコンへ外付けするタッチパネルです。
マウスを使わず画面にタッチするだけでパソコンを操作することができます。
幼児、高齢者、障害者のパソコン操作に最適なツールです。

ノートＰＣ用

ＬＣＤモニタ用

ＣＲＴモニタ用

② タッチノート

タッチパネル組込み済ノートＰＣの決定版です
画面にタッチするだけでノートパソコンを操作できます。
スピーキングダイナミカリプロを搭載しての利用も検討下さい。

ブース No. : 12

有限会社エーティーマーケット

〒 160-0023 東京都新宿区西新宿 3-9-6 OYA ビル 6F
Tel：03-5333-1325，Fax：03-5333-1326　担当者名：花岡 里美
E-mail：info@at-market.org，http://www.at-market.org

エーティーマーケットでは、様々なソリューション（解決方法）をご用意してお待ちしております。

1. 原因と結果を理解出来るようになれば・・。
ワンスイッチで遊べるゲームから試してみてはどうでしょうか。

2. 左クリックと右クリックだけが出来れば、いいんだけど・・。
新製品、世界最小の USB スイッチインターフェース「Switfty（スイフティ）」をご用意しています。

3. 勝手にコンピュータを触って欲しくないな・・。
コンピュータをプロテクトしてしまいましょう。

4.Mac ユーザなんですが・・。
新しくなったオンスクリーンキーボード、「SwitchXS（スイッチ XS）と LayoutKitchen（レイアウトキッチン）」は、最新の Mac OSX に対応しています。SwitchXS には、もともと標準の添付パネルがありますが、LayoutKitchen でご自身に合ったパネルをユーザご自身で作成する事が可能です。画像や音声を利用して、コミュニケーションボードとしてもご利用頂けます。

5. 四肢麻痺で手足が不自由なのですが、頭の動きだけでコンピュータを利用したいのですが・・。
手のひらよりコンパクトな「Head Mouse Extreme（ヘッドマウスエキストリーム）」をご用意してお待ちしております。

6. どんな人が、機器を利用しているの？
これまでの導入事例をご紹介致します。
その他 .Giesbert（オランダ）がデザインした、SwitchXS のメーカー AssistiveWare の最新のロゴ入り長袖 T シャツを展示。Giesbert は、HeadMouse ユーザでもあります。
最新のとってもオシャレなツール（道具）をご用意してお待ちしております。（ブースに来てお確かめ下さい！）

ブース No.：29

有限会社 エムクリエイト

担当者名：松本＆松永
〒 532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島３－５－１２
新大阪浪速ビル２０２号
Ｔ el ＆Ｆ ax：０６－６３０５－５２１０
E-mail : office@mcreate.jp，http://www.mcreate.jp

パソコンのマウスが使いにくい方のための特殊マウスＹＯＵＹＯＵＭＯＵＳＥⅡ（ユウユウマウスツー）を展示します。
保護者、養護学校や作業療法士の先生方のご意見をいただきながら製品化しました。
パソコンを通じて学習と訓練の多方面からお役に立てればと願っています。
使用する方がより使いやすくなるよう、その方の要望をできる限り取り入れたセミオーダーもいたします。
デモ機を用意しておりますので、ご相談下さい。ぜひ皆さん、どうぞお立ち寄りいただき触れてみて下さい。

ブース No.：31

玩具福祉学会

〒 191-0041 東京都日野市南平７－１８－３０
理事長：小林るつ子
TEL ／ FAX　０４２２－４８－８５００
E-mail：Ruthk58@aol.com

玩具福祉学会展示コーナー

すべての人が、楽しく幸せに、元気になるように願いを込めて研究・調査・実践をしています。学者・研究者・実践者・玩具企業集団が学会を支えています。『玩具』は、多くのハイテクが活用されてます。ロボツトや話をする人形、パソコン的なゲームは、誰もが熱中するはずです。『介護予防』は、まず玩具の研究です。展示の玩具はモニターとして御希望の方々に配布して今年で４年目です。今年もお申し込みはお早めに。

楽しく遊ぶ写真

ブース No.：28

Claro Software

国内問合せ先：こころリソースブック出版会
〒 277-0882 千葉県柏市柏の葉 2-11-3
Tel：04-7136-8116，Fax：04-7136-8117
E-mail：info@kokoro-rb.jp，http://www.kokoro-rb.jp

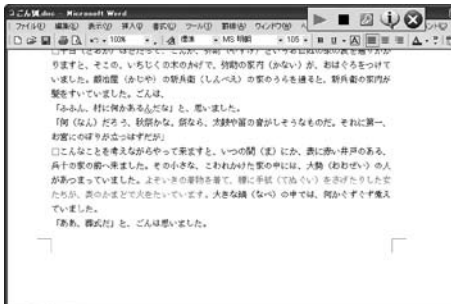
学習障害のある子どもの
読み書きを助ける強力な
Windows 用ソフト登場！

■文に注目しやすくすることで読書を支援する
ScreenRuler（スクリーンルーラー）

○拡大表示
読もうとしている行を拡大強調表示して，注目することを支援します。
○マスキング
読んでいる行以外を暗くして，注目することを支援します。
○コントラスト表示
表示色を反転することで読みやすい配色にします。

■文を読上げることで文章理解や，
書いた文章の確認を支援する
WordRead（ワードリード）

○マイクロソフト ワードを直接読み上げ！
読みたい部分をクリックし，読上げボタンを押すだけで読上げることができます。
○その他，テキストは何でも読み上げます！
読みたいテキストを選択し，コピーした後で読上げボタンを押すことで読上げます。



ブース No. : 22

五大エンボディ株式会社　健康・医療開発室

〒 601-8141 京都市南区上鳥羽卯ノ花 69 番 2
Tel：075-672-8400，Fax：075-672-8401
E-mail：godai@mentek-godai.co.jp，http://www.mentek-godai.co.jp/

「PIC シンボルカード」
― あなたの言葉がカードになった ―
これ迄の紙や、それを貼り付けた素材のものと比べ耐久性に優れ、また、洗浄可能なことにより、清潔に安心してお使い頂くことが可能です。

「ひまわりボード」
― スケジュール＆
コミュニケーションボード ―
時間の見通しをつけるための予定表として、または、コミュニケーション用シンボルの出し入れ自由な保管場所として家庭や学校でご利用頂けます。

「Cozy プロジェクト体験ルーム」
（Room104 にて）
「Cozy（コーズィー）」とは英語で「居心地の良い」という意味です。障害の有無に関わらず誰もが心地よくワクワクするような環境の提供を目指します。
パワーアップした大型万華鏡やシャボン玉発生器に加え、京都精華大学様との共同研究による新作も登場です。

ブース No. : 26

企業組合 カトレア・サービス

本部・福祉機器担当　担当者名：竹内 秀剛

〒 451-0044 愛知県名古屋市西区菊井 1 丁目 10-10
Tel：（052）581-2943，Fax：（020）4664-2140
E-mail：info@2949n.com，http://www.2949n.com/

マルチ点字プリンター「アーチＢＰⅡ」
この点字プリンタは、安価に個人・小規模団体レベルで使用することを目的に開発した製品です。
フリー点訳ソフトで編集した文章、またはインターネットからダウンロードした点訳データ等の印刷に使用します。視覚障害者の方々を始め点字業務に携わる方々に使用して頂きたいと思います。

マルチ機能の実現！！
①　名刺への点字印刷機能
Ａ４、１０枚の市販汎用用紙、15 マス ×4 行
②　タックペーパー印刷機能
透明シールに印刷する事により、いろんな物や場所に点字案内シールを貼ることができます。
③　ラミネート加工紙への印刷機能
墨字と合わせて表記することで、臨機応変に内容を変えることが、誰にでも頻繁にできます。

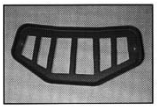
ブース No.：**36**

サンタ

〒 642-0022 和歌山県海南市大野中 701-1
Tel：073-482-1691，E-mail：santa@nnc.or.jp，
http://www.nnc.or.jp/~santamui

音や光や振動など出るおもちゃにそれぞれのお子様に合ったスイッチをつないで，
楽しみながら訓練ができる環境をつくります。
シンプルでかわいい VOCA でこどもたちがすすんで
コミュニケーションをとろうとする環境をつくります。

Toys for Special Children 社
スイッチ類，おもちゃ類，コミュニケーション機器



ブース No.：**35**

株式会社 城南電器工業所　福祉機器開発室

〒 611-0033 京都府宇治市大久保町成手 1-28
Tel：0774-43-1673，Fax：0774-43-1674
E-mail：info@ponpon-land.com，http://www.ponpon-land.com/

スイッチを押すことで世界を広げましょう！

●ぽんぽんらんど One（わん）
１つのスイッチ対応の“ぽんぽんらんど”！
絵本とキャラクターのたぬきくんのおなかをイメージした木製スイッチ付き。
いろいろな入力装置にも対応してます。
スイッチを楽しく押す練習に。

●ぽんぽんらんど mini2（みにつう）
４つのスイッチを押したり叩くだけ。
８種類のゲームで楽しんでね。

●ぽんぽんらんどインテリキー
スイッチからキーボードへの移行段階やスイッチ操作の認知の困難な方へ。

●ぽんぽんらんど ensemble（あんさんぶる）
“mini2”を卒業したら，少しレベル UP。
でも楽しく使える４つのゲーム。

●マウスコントローラー，大型キーボード
パソコンが使えるようになる人がいっぱい増えたらいいなぁ。

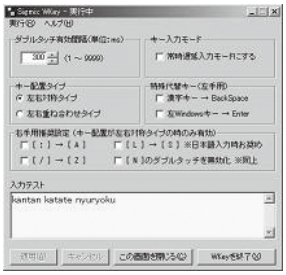
ブース No.：**21**

株式会社 シグミックス

〒101-0065 東京都千代田区西神田３－３－６
ジェイ・ケイ・ウィルトン九段 5F
Tel：03-3288-9222，Fax：03-3288-9223
E-mail：wkey@sigmix.com，http://www.sigmix.com/

●片手入力支援ソフト「WKey」
WKey は、フルキーボードの半分だけを使って、簡単に片手入力ができるようにするソフトです。各文字キーのシングルタッチとダブルタッチを区別するという、新発想の入力方法を採用しています。右手でも左手でも使用することができます。

展示ブースでは、より便利に使っていただくために、新たに開発した機能もご紹介します。ぜひ実際に触ってお試し下さい。



ブース No.：32

日本電気 株式会社

問い合わせ先：121 コンタクトセンター
（電話：0120-977-121）

・上肢障害者向け Windows 操作支援ソフト「オペレートナビ EX(Ver2.1)」
http://121ware.com/software/openavi/

重度の上下肢障害を持つ方が、スイッチ一つでパソコンの操作を行う支援ツール。パソコンを活用することで、インターネットの検索やメールや TV 録画、視聴などさまざまなコミュニケーションや情報発信ができます。

・視覚障害者向け Windows 画面拡大支援ソフト「ZoomText 8.1 Magnifier」
http://121ware.com/software/zoomtext/

弱視の障害を持つ障害者や高齢者向けのパソコンの画面を大きく拡大表示し見やすくするソフトウェア。小さな倍率から最大 16 倍の大きな拡大をサポート。反転表示や輪郭補正、ホットキーの設定などで視覚的な優しさと操作性に優れています。

ブース No.：34

有限会社 ストラトゲイト

担当者名： 小林 整（こばやし　ひとし）
〒617-0824 京都府長岡京市天神２－２８－１０
Tel：075-953-5181，Fax：075-958-0055
E-mail：info@stratogate.co.jp，http://www.stratogate.co.jp

StratoGate INCORPORATED

1） パソコン操作支援装置「かおマウス」

顔型にレイアウトした直交ローラーで、カーソルポインタの操作をタテ、ヨコ独立して操作できる大変ユニークなマウスです。「標準型」に加え、カンタンに左右ボタンのドラッグロックが行える「まゆ毛付き」、狭いスペースにも置ける小型版の「小顔マウス」、ローラーポジションを９０度ずつ設定により変更できるニュータイプも展示します。

2） 支援ソフト「『かおマウス』 ユーティリティ Ver.2」

- 左右ボタンやローラーの読み替え設定
- 弱視の方のためのクロスヘアカーソル
- 拡大表示機能
- レイアウト自由自在、日本語入力インターフェース
- Web ブラウズ用の「ハイパーリンク一覧機能」
- 指定ポイントのみクリックできる「Hot Spot Layer」機能
- ショートカットキー一覧

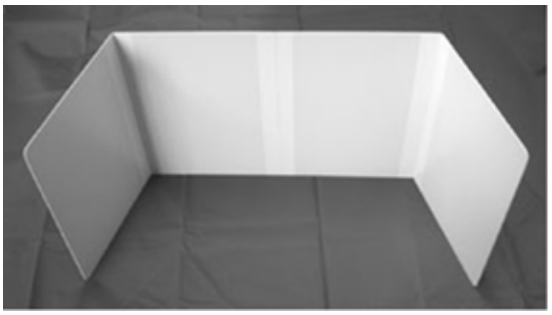
など、強力にパワーアップしました。

3） 森の香りのキーボード「かおピアノ」

かわいい動物の顔型をした木製筐体のピアノです。
白黒の鍵盤の代わりに押しやすく丈夫な丸型ボタンを採用しました。
子ども達の「操作意欲」「探究心」「遊び心」をひき出します。

ブース No.：17

生活工房・ダイダラス社（カナダ）



担当者名：増澤 高志
〒 596-0813 大阪府岸和田市池尻町 250-1
Tel：0724-44-8814，Fax：0724-44-8546
E-mail：JZA00265@nifty.ne.jp，http://homepage2.nifty.com/seikatukoubou/

ものや道具，環境でできること，萬承ります。

パソコンの普及と発展は障害を持つ人にとっても様々な社会参加を可能にする大きな力になりましたが，生活が広がれば広がるだけ，机の上のパソコンの前だけではなく，外出時にもそれを必要とする場面が増えてくるのではないでしょうか。
カナダのダイダラス社製のマウンティングシステムは，約８kgの耐荷重があり，ノートパソコンや，コミュニケーションエイド等を安心して連れて行くことができます。移乗の時も，横に動かしたり，折りたたむことができます。（製品により異なります）また，スイッチを適切な位置に固定するデイジーシステムもあります。
また今回，生活工房として，自閉症の人のコミュニケーションの前提ともなる，わかりやすく，安心して生活できる空間づくりに関わっての提案を中心に展示を致します。お立ち寄り下さい。

ブース No.：11

株式会社 世界日報社　電子メディア部

担当者名：高橋
〒 177-0041 東京都板橋区舟渡２－６－２５
Tel：03-3558-3612，Fax：03-3558-3646
E-mail：webmaster@worldtimes.co.jp，http://www.worldtimes.co.jp/

電子新聞を更に使いやすく！

世界日報社の「e-News リモコン・プラス」は、同社発行の日刊紙「世界日報」を電子化した電子新聞「IT e-News」を専用の赤外線リモコンで遠隔操作するためのハードウエアおよびソフトウエアです。

■弱視の障害を持つ方や、シニア層に配慮した機能

・記事の音声読み上げ機能（現在、主要記事のみ）
・連続読み上げ機能
・ボタン操作時の音声ガイド
・新聞を見る／読むためのほとんどの機能をボタン一つで遠隔操作

※ e-News リモコンは、汎用の赤外線リモコン装置です。設定ファイルをカスタマイズすることによって、様々なアプリをリモコン操作できます。代表的なものに対しては、設定ファイルが付属しています。

ブース No.：19

財団法人 全日本情報学習振興協会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 3-7-12　清話會ビル 5F
Tel：03-5276-0030，Fax：03-5276-0551
E-mail：joho@joho-gakushu.or.jp，http://www.joho-gakushu.or.jp/

本協会は、文書処理技能に関する講習会・研修の実施、情報学習者向け出版物の刊行、文書処理技能検定試験、パソコン技能検定Ⅱ種試験、パソコン講師技能検定試験、福祉情報技術コーディネーター認定試験などを実施しております。

福祉情報技術（アシスティブテクノロジー）コーディネーター認定試験は、
コンピュータ・ＯＳ・ネットワークに関する基礎知識や障害者に対する教育に関する
一般的知識を問うものです。平成１７年度は以下のように検定を予定しています。
ＡＴＡＣカンファレンスで学んだ知識で皆さんもぜひ挑戦してみて下さい。

試験日

第９回　　平成１８年1月２２日（日）

申込期間

平成１７年１２月１２日（月）～　１２月２０日（火）

ブース No.：24

特定非営利活動法人　e-AT 利用促進協会

〒101-0063　東京都千代田区神田淡路町 2-3-1002
Tel：03-5207-6318，Fax：03-5207-6418
E-mail：info@e-at.org，http://www.e-at.org/

【障害を理解し，利用者に合ったe-AT活用をサポートする「福祉情報技術コーディネーター」を養成します。】

【ｅ－ＡＴ オンライン学習（http://www.at-online.jp/）の体験ならびに販売】

●「ｅ－ＡＴ オンライン」とは，障害のある人が適切な支援技術を選択・利用できるよう，
それらのサービス提供者がｅ－ＡＴ について学習するシステムです。
●「ｅ－ＡＴ オンライン学習の流れ」は，学校での授業のような形式で学習を進めていきます。
イラストや写真，動画，インターネット上のホームページで多角的に学習ができます。
●「 ｅ－ＡＴ オンラインパッケージ」を現地限定特価販売します。
●「詳解福祉情報技術Ⅰ＆Ⅱ」，「速習・独習テキスト福祉情報技術コーディネーター認定試験」
等のテキスト教材の単品販売もします。

SORA 有限会社

〒 965-0872 福島県会津若松市東栄町 9-15 NTT 東栄町ビル 1F
Tel： 0242-27-4076，Fax： 020-4664-3450 (D-FAX)
E-mail： contact@sora-art.jp，http://www.sora-art.jp/

SORA
software of rising age

「そらメール」

言語の表出に障害を持つ人やキーボード入力が苦手な人を対象としたメールソフト（Windows 版）です。だれが・どこで・いつ・何をしている・なぜ・どのようにの質問に対し、画像付きの単語を選択していくことで文を作成します。作成した文は、インターネットで相手に送ったり、印刷したり、日本語に翻訳して読み上げたりすることが可能です。障害に応じた操作法・入力機器に対応し、オートスキャンなどを利用できます。また、パソコンに不慣れな方でもインストールやきめ細かな設定が簡単に行えるよう様々な工夫が用意されています。

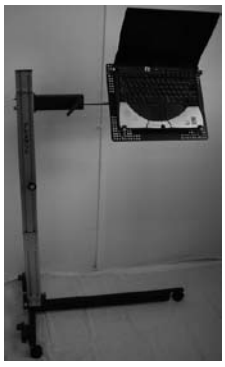
ブース No.：6

ダブル技研株式会社　営業部

担当者名： 寺田 真智子
〒 252-1113 神奈川県綾瀬市上土棚中 4-2-43
Tel： 0467-77-8797，Fax： 0467-77-7865
E-mail： info@j-d.co.jp，http://www.j-d.co.jp

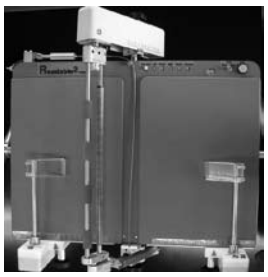
＊　アシスタンド　＊

ノートパソコン、液晶モニター用のスタンド。
車椅子やベットでも簡単に高さ・角度調節ができ、パソコン操作が楽にできます。
キャスター付で移動も簡単！
角度バー（オプション）の使用により、複雑な三次元での位置調整も簡単にできます。



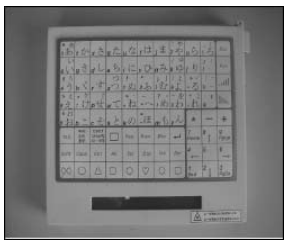
＊　りーだぶる２　＊

自動ページめくり機。
どんな姿勢でも大丈夫。仰向け姿勢でも OK!
文庫本から A4 サイズ（電話帳サイズ）まで対応。漫画週刊誌やパソコンマニュアルも自在に読めます！！



＊　LUCY　＊

ハンズフリーキーボード。キーボードを使うことが困難な方のためにオランダで開発されたパソコン操作用の多用途補助ツールです。レーザーポインタの使用により文字入力やマウス等の操作を簡単に早く行うことができます。LUCY はパソコンと繋ぐだけで OK！
ソフトのインストール等は一切不要です。
この秋、「日本語版　LUCY」として新発売！！



ブース No.：7

株式会社 テクノスジャパン　営業グループ

担当者名：原野 晃一
〒 670-0949 兵庫県姫路市三左衛門堀東の町 78 有交ビル 2F
Tel：0792-88-1600，Fax：0792-88-0969
E-mail：e-group@technosj.co.jp，http://www.technosj.co.jp

バイオスイッチ「エモス」、「マクトス」を体験できます。

■エモス（EMOS）

筋電信号、眼電信号を利用したスイッチ。ひたいや眉のわずかな動きで簡単にスイッチ操作ができます。接点信号出力の他、USB 接続でパソコンに左クリック信号も出力可能。センサー部は貼り付けタイプの電極で、取付けも大変簡単です。

■マクトス（MCTOS）

筋電・眼電信号および、脳波を利用したスイッチ。最重度障害者の方のコミュニケーションを可能にします。新製品「MCTOS WX」は、液晶モニター画面搭載です。

ブース No.：16

テクノツール 株式会社

〒 206-0802 東京都稲城市東長沼 2106-5 マスヤビル 4 階
Tel : 042-370-6377，Fax : 042-370-6378
E-mail : office@ttools.co.jp，http://www.ttools.co.jp

小型ひらがなキーボード USB，なんでもスイッチ USB　／　オペレートナビ用スイッチコネクタ USB
らくらくマウス（ONE・STEP 企画社製品）　／　トーキングエイド用 USB アダプタ　／　キーガード

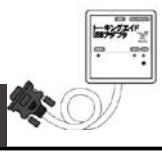
・テクノツールでは、パソコン利用を中心とした入力支援、コミュニケーション
　支援などのご相談、ご案内などを行っております。

肢体不自由者向けシステム構成（例）

パソコン本体

●キーボード・マウス操作が困難な方
意思伝達装置が必要な方

オペレートナビ用スイッチ
コネクタ USB



●トーキングエイドを
キーボードとして利用したい方

トーキングエイド用 USB アダプタ

●標準のキーボードでは入力困難な方

小型ひらがなキーボード
大型キーボード

●標準のマウスでは操作困難な方

らくらくマウス
トラックボール
フット用マウス

●キー入力時 , 目的のキー以外を
押してしまう方

キーガード

ブース No.：18

パシフィックサプライ 株式会社　マーケティング部

担当者名：藤田 大介／松井 由起子
〒 574-0064 大阪府大東市御領 1-12-1
Tel： 072-875-8013，Fax： 072-875-8017
E-mail： info@p-supply.co.jp，http://www.p-supply.co.jp/

1. 姿勢保持

スイッチやコミュニケーションエイドの活用と共に大切となるのが「姿勢」です。今回はオリジナルの姿勢保持製品についても展示します。

PPS スイッチ 使用例（エアバッグセンサーの使用例）

2. オリジナルスイッチ

PPS スイッチ、ポイントタッチスイッチなどのオリジナルスイッチやスペックスイッチ、ジェリービーンスイッチ、ビッグスイッチなどのエーブルネット社スイッチを豊富な適合例写真と共に展示します。アームと組み合わせたり、身近な素材を上手く組み合わせたりすることで使用の可能性が広がります。スイッチの適合について新たな可能性を求めていらっしゃる方、ぜひブースにお立ち寄りください。

3. VOCA フレックス 2 & メッセージメイト

ファルク社の VOCA フレックス 2、ワーズ＋社のメッセージメイトシリーズを展示します。VOCA は知っているけど違いはあまり分からなくて・・という方、それぞれの VOCA の特色をお試しください。ご使用になられる方に合わせて VOCA を選択する、このことがご使用者のコミュニケーションを広げます。

4. エーブルネット社 VOCA

シンプルで使いやすいパワフルな VOCA「スーパートーカー」が昨年登場し、大旋風を巻き起こしています。8 分間の録音時間、8 レベル（8 通り）のメッセージの録音・再生、キー数が 1、2、4、8 キーから選択可能…と充実した機能と使いやすさでファンが増えています。まだご存知でない方、活用できるか不安‥という方、ぜひこの機会に実際にお試しください！ステップバイステップウィズレベルなど 1 スイッチタイプの VOCA ももちろん展示します。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。

スーパートーカー使用例

PPS スイッチ 使用例（ピエゾセンサーの使用例）

PPS スイッチ製品

ＶＯＣＡフレックス 2

メッセージメイト 20

ビッグステップバイステップ

ブース No. : 1

株式会社 ナムコ　ＢＥ機器グループ

担当者名：吾田（アズタ）麻衣子
〒 221-0031 横浜市神奈川区新浦島町１－１－３２
Tel：045-461-6956，Fax：045-461-3588
E-mail：master@hustle-club.com，http://hustle-club.com

◆ トーキングエイドライト

高齢者にも使いやすく持ち運びが便利なよう小型・軽量化し、話すという基本機能に絞った新製品です。

◆トーキングエイドＩＴ

通信機能付きのハイグレードなトーキングエイドです。パソコンとのＵＳＢ接続、漢字変換と単語予測機能が付き、音声録音もより自然で聞き取り易くなりました。

◆ パソパルマルチＶｅｒ４.０

体の一部で１つのセンサを動かすことでパソコン操作ができる、重度身体障害者（児）向けの意志伝達装置です。オリジナルキーボードの作成や、インターネットやメール、環境制御装置としての機能も搭載しました。

ブース No.：10

株式会社 日立製作所

アクセシビリティグループ

〒 100-0004 東京都千代田区大手町二丁目２番１号
Tel：03-4232-5077，Fax：03-4232-5083
E-mail：aseg@ml.itg.hitachi.co.jp
http://www.hitachi.co.jp/accessibility/

ブース No.：8

●身体障害者のための意志伝達装置「伝の心」
日常使用文や定型句を選択する他に、自由に文章を作成して意思伝達ができます。また、テレビなど赤外線リモコン機器の操作、電子メール送受信、ホームページ閲覧、ウィンドウズ操作ができます。

●シニア層や初心者に配慮したパソコン支援ソフト「心友」
画面に表示された文字盤をクリックすることで文字入力ができます。画面拡大、マウス吸着、ホームページの音声読上げ機能によりパソコン操作を支援します。また、表示文字の大きいアプリケーションとして「文書作成」「日記」「メール」を搭載しています。

●脳血液量の変化を利用したＹｅｓ／Ｎｏ判定装置「心語り」
身体が全く動かないＡＬＳ（筋萎縮性側索硬化症）患者さんの脳血液量変化を検出してＹｅｓかＮｏを判定する装置です。患者さんは回答期間中に、Ｙｅｓと回答したい場合には脳を活性化させ、Ｎｏと回答したい場合には安静状態を継続させます。

ファンコム 株式会社

担当者名： 松尾 光晴
〒 570-8501 大阪府守口市八雲中町３－１－１
松下電器産業株式会社内
Tel：06-6906-9055，Fax：06-6906-9056
E-mail： info@funcom.co.jp，http://www.funcom.co.jp

４月、８月にレッツチャットが「NHK 福祉ネットワーク」で大きく紹介されました！

Funcom Co.,Ltd.
ファンコム株式会社

let's·chat

携帯用会話補助装置
レッツ·チャット

【会話専用だから安心】
言語障害および上肢障害を持つ方のための会話補助装置です。
マイコンを使っているので、いつでも電源の入／切ができます。フリーズの心配もまずありませんので、機械に弱い方にも安心して使って頂けます。

【スイッチひとつの簡単操作】
オートスキャン方式で１（または２）スイッチのみで全ての操作ができます。福祉機器各社のほとんどの入力スイッチが接続可能ですので、障害に合わせた入力スイッチをお選び頂けます。

【小型軽量】
小型（Ｂ５ノートサイズ）、軽量（約７５０ｇ、単三乾電池４本含まず）なので家の中だけでなく、屋外や病院に持っていっても使えますので、活動範囲が拡がります。

【利用者にあわせた使い方が可能】
障害の程度や使う際の姿勢に合わせた多彩なスイッチと支持具、コール等のオプションを準備。負担の少ない方法、姿勢でお使い頂けます。

ブース No.：9

福祉支援サービス コミル

〒 577-0801 大阪府東大阪市小阪 2-16-7 1F
Tel：06-6781-2089，Fax：06-6781-2099
E-mail：info@comil.jp，http://www.comil.jp/

チャッティー！
VOCA がお求めやすくなりました。
国産 VOCA “ チャッティー！ ” 発売開始！
８つの音声を録音できる VOCA が１万円台で登場。
もちろん外部スイッチでの操作にも対応しています。

2 ロックアームプッシュスイッチ
さらにプッシュスイッチと固定アームのセットも１万円台！
自由な角度でとても強力に固定できるので、筋緊張や不随意運動の強い方にも安心です。
机に固定するクランプやスイッチを固定するマウントプレートまで入れてこのお値段。
他に買い足すものはありません。

ブース No.：33

有限会社 スペース 96

〒 176-0011 東京都 練馬区豊玉上２－２４－１，
Tel：03-3991-9600，E-mail：QWK01077@nifty.ne.jp，
http://www.normanet.ne.jp/~ww100136

障害者関連図書の
展示・販売をおこないます。
日頃あまり目にすることのない，
書店には流通していない
貴重な本も取り揃えています。

こころリソースブック出版会

〒 277-0882 千葉県柏市柏の葉 2-11-3
Tel：04-7136-8116，Fax：04-7136-8117
E-mail：info@kokoro-rb.jp，
http://www.kokoro-rb.jp

こころリソースブックを始めとする，
AT 及び AAC 関連図書を展示・販売します。

ロビー

富士通 株式会社　コンサルティング事業本部

担当者名：伊藤 智之
〒 144-8588 東京都大田区新蒲田 1-17-25
Tel：03-6424-6226，Fax：03-6424-6371
E-mail：consul@tokyo.ssg.fujitsu.com
http://software.fujitsu.com/jp/kidstouch/
http://segroup.fujitsu.com/consulting/strategy/accessibility/easy-mail-and-browser/index.html

●キッズタッチシリーズ

・機能を厳選したシンプルなソフトウェアです。次の７タイトルがあります。
　ぬりえできるかな？　　ドレミひけるかな？　いろんなせんかけるかな？
　かくれてるのなーんだ？　ひらがなかけるかな？　カタカナかけるかな？
　パズルできるかな？
・学習ファイルを作成することにより、対象の子どもに合わせた教材が提示できます。
　また、画像ファイルや動画ファイルを取り込んで、オリジナルの教材を作成できます。
・マウスの操作が難しい場合は、代替キーボードや外部入力スイッチなどを使って
　操作できます。

●らくらくメール・らくらくブラウザ

通常の電子メールソフトやウェブブラウザの使用が難しい障害児、障害者、子ども等を対象にした、アクセシビリティに配慮した電子メールソフト、ウェブブラウザです。

ブース No. : 4

ブース No. : 27

私どもプレイケアセンターは、全ての方に、遊びを通じて、笑顔を提供するために日々活動しております。「プレイケア」とは、遊びの気づき　という意味です。関わる側も、関わられる側も双方の遊びたいことを発見することから始まります。そして、遊んで笑顔になり、何か効果がある様なことを行います。そんな全てのことを「プレイケア」といいます。

この「プレイケア」の理念を普及すべく、プレイケアセンターは２００３年度に設立されました。３つの活動をしております。1、「人」においては、プレイケアリーダー養成講座を全国で開催し、現在１５００名の方が取得しております。2、「物」においては、商品の販売、モニタリング、レンタル等を行っております。3、「情報」においては、笑顔創造マガジン「プレイケア」の発行、ホームページ、メルマガ等を活用し、レクリエーションに関する様々な情報共有の促進を行っております。皆様の遊びに関する様々な活動をお手伝いさせて頂いております。

プレイケアセンター

〒 111-8081 東京都台東区駒形 2-5-4 ㈱バンダイ本社ビル　http://www.playcare.jp,
Tel：03-3847-5024，Fax：03-3847-5176，E-mail：info@playcare.jp

マイクロソフト 株式会社

〒 151-8583 東京都渋谷区代々木 2-2-1 小田急サザンタワー
E-mail：jpgiving@microsoft.com，http://www.microsoft.com/japan/mscorp/citizenship/

世界中のすべての人々の持つ可能性を
最大限に引き出すためのお手伝いをすること、
これがマイクロソフトのミッションです

●アクセシビリティの取り組み

製品の開発段階で障害を持つ方や高齢者の方にユーザビリティテストにご協力いただいたり、アクセシビリティ製品の開発企業様と協力して、すべての人にとって使いやすい製品を提供することをめざしています。また、国内外のアクセシビリティの標準化活動に取り組んでいるほか、大学と共同でアクセシビリティリーダー人材育成のプログラムも始めました。
http://www.microsoft.com/japan/enable/default.mspx

●UP プログラム

IT を活用する機会が少なかった方々を対象に、目的に合わせた IT 研修を通じて、社会参加や自立支援、就労の機会拡大など、様々な可能性を広げることを支援するプログラムです。
現在、NPO や自治体などとのパートナーシップのもと、全国各地で、障害者、女性、在住外国人向けのプログラムを実施しています。
http://www.microsoft.com/japan/mscorp/citizenship/ca/up/

「障害者の IT 利用支援のための UP プログラム
－　障害者のための IT サポート基本セミナー」
開 催 日：　平成１８年1月２８日（土）―２９日（日）
開催場所：　ウエルとばた 11 階
主　　催：　社団法人北九州障害福祉ボランティア協会
　　特定非営利活動法人 e-AT 利用促進協会
　　マイクロソフト株式会社

（UP プログラム講習風景）

● ICT スキルアッププログラム（ICT 教育推進プログラム協議会）

教育における情報コミュニケーション技術（ICT）の利活用を推進するため、教職員研修の実施、カリキュラム／教材の提供、教職員コミュニティサイトの運営などを行うプログラムです。ICT スキルアッププログラムの１つとして障害をもつ児童・生徒を支援するためのコース「ICT アクセシビリティ」を実施しています。
http://www.microsoft.com/japan/mscorp/citizenship/ca/pil/

（ICT スキルアッププログラム講習風景）

THE MAGICAL TOY BOX
（マジカルトイボックス）

–テクノロジーを使ったコミュニケーションエイド–
「障がいが重い人でもコミュニケーションをしているはず。
なんとかそれを豊かにできないだろうか？」

この思いを実現するために、見る聞く段階の遊びの工夫から始めて、障がいに合わせたスイッチを使用したテクノロジーの利用について研究者だけでなく、子どもたちや保護者も含めて、多くの人が参加出来るようにと実践的な活動をしている団体です。
今回の展示では、チャレンジキッズ研究会と共同で作った書籍「特別支援教育におけるコミュニケーション支援」やマジカルのこれまでの活動を紹介するイベントパンフの展示、自主製作の入力装置、改造おもちゃを紹介し実際にさわっていただきたいと思います。また、来年の１月７日、８日にイベントがありますので、その時に製作する予定の機器も紹介します。

マジカルトイボックス

担当者名：金森克浩，Fax：020-4665-1176，E-mail：nah00531@nifty.com，http://homepage3.nifty.com/aac/

ブース No.：13

明電ソフトウエア 株式会社

担当者名： 外川 幸宣
〒 410-0012 静岡県沼津市岡一色通り町 809
Tel： 055-923-4972，Fax： 055-923-1191
E-mail：TalkAssist@mb.meidensoftware.co.jp
http://talkassist.meidensoftware.co.jp/

ブース No.：2

携帯用会話補助装置
「トークアシスト」

トークアシストは「視覚シンボルを利用したコミュニケーションエイド機器」です。自閉症などの発達障害によるコミュニケーション障害者に対し大きな効果が期待できます。展示会場でトークアシスト相談会を行っています。

高次脳機能障害者支援ソフト
「メモリアシスト」

メモリアシストは高次脳機能障害者のリハビリから社会復帰以降の日常生活における「記憶」・「注意」・「遂行」をトータルで支援するソフトウェアです。

ブース No.：5

株式会社ユーキ・トレーディング　福祉機器事業部

担当者名：佐野 公治
〒 110-0008 東京都台東区池之端 2-5-46
Tel：03-3821-7331，Fax：03-3821-7552
E-mail： info@yukitrading.com，www.yukitrading.com （仮オープン）

発話が困難な方のための
Ｐｅｎコミュニケーションエイド
「コミＰｅｎ」

パソコン上で、文字やイラスト・写真などを自由に作成し、白紙のＡ４上質紙へプリンター出力します。その紙（コミュニケーションシート）に印刷されている文字やイラスト・写真に、コミＰｅｎでタッチしていくだけで、音声ガイドや動画再生、あるいはホームページ閲覧などが行なえるコミュニケーションエイド製品です。
例えば「自分の名前」という文字やイラストをコミＰｅｎでタッチすれば、自分の名前を音声再生したり、自己紹介の動画がＰＣ上で流れるわけです。このように、障害者個人に合った「コミュニケーションシート」を手軽に何種類でも何枚でも、しかも安価に作成することができます。

コミPenで伝えたい内容の項目にタッチ！ パソコンに音声や動画・字幕が現れます。

開発元：株式会社 フェロー

〒 761-8085 香川県高松市寺井町 16-1
Tel：087-888-5656，Fax：087-888-5666，
東京支店　Tel：03-3249-3691，Fax：03-3249-3693
E-mail：furu@fellow-inc.co.jp ，http://www.fellow-inc.co.jp

ブース No.：15

レインボープロジェクト

担当者名：村 一浩，〒 168-0072 杉並区高井戸東 1-18-5　こども発達センター内
Tel：03-5317-5661，Fax：03-5317-5664，E-mail：mura-kazuhiro@city.suginami.lg.jp

==========

障害児療育支援システム　「たっちゃんのコネク島」

杉並区立こども発達センター・女子美術大学メディアアート学科・(株) キャドセンターが共同し、発達年齢１歳から４歳のこどもでも楽しめるコンテンツを開発しています。
ねらいは「コミュニケーション」。
複数の人が同時にタッチして操作できる大画面モニターを使い、シンプルなものから二人で協力して楽しむものなど考えてみました。
試作品を展示しておりますので、どうぞさわってみてください。

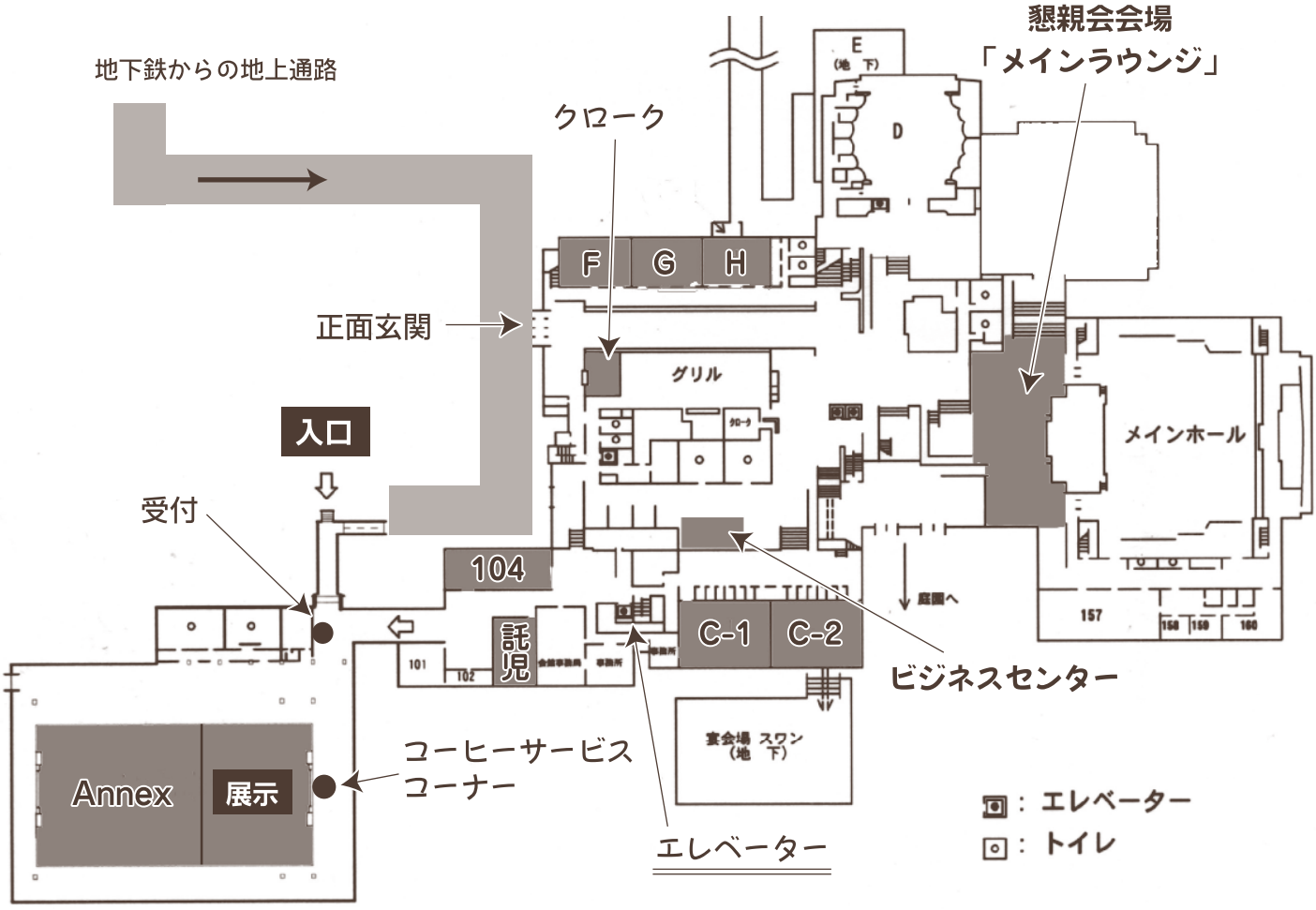
==========

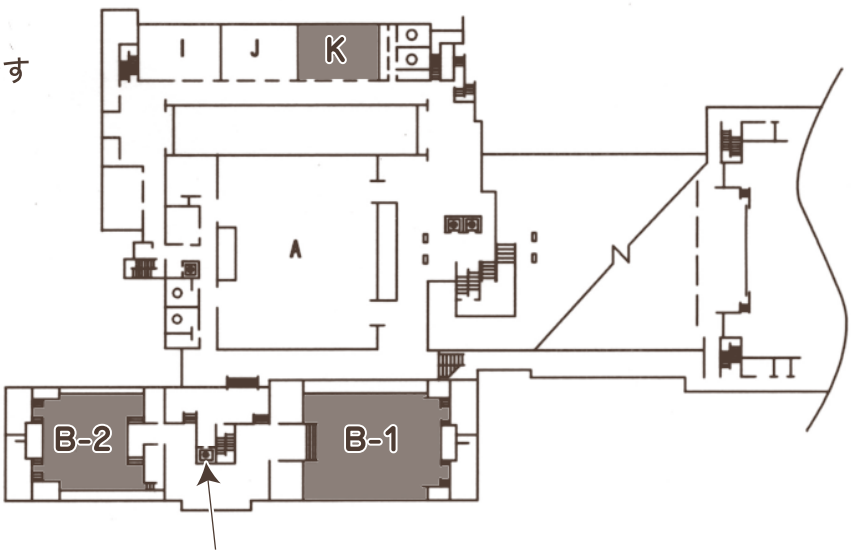
京都市立呉竹総合養護学校様
五大エンボディ株式会社様には，
ATAC カンファレンス 2005 の開催にあたり，
多大なご協力を頂きました。
ありがとうございます。

特定非営利活動法人　e-AT 利用促進協会
（ＡＴＡＣカンファレンス 2005 事務局）
〒 101-0063　東京都千代田区神田淡路町 2-3-1002
Tel：03-5207-6319 / Fax：03-5207-6418
e-mail：atac@e-at.org
http://www.e-at.org/atac

会場案内

1F



2F

B-1,B-2ルームへは、
4Fからの入室も可能です